

2 0 1 9 年度

事業報告

〔要約版〕

社会福祉法人麦の子会

目 次

2019年度の主な動き	3
I 法人運営.....	4
II 児童部門（幼児）	7
III 児童部門（学童）	21
IV 児童部門（生活支援）	31
V 成人部門.....	42
VI 社会的養護部門.....	62
VII 医療・地域・相談部門.....	68

2019年度の主な動き

①2019年度の重点目標

1. 子どもと〇〇〇さん、〇〇を〇〇できるそれぞれの〇〇〇と〇〇を〇に〇けます。
2. 〇く〇〇を〇〇にします。
3. 〇〇の〇〇〇〇
4. 〇〇への〇〇 - 〇〇の〇〇
5. お〇〇〇〇〇〇〇〇 - ホスピタリティ (〇いやり) をもって

②札幌市みかほ整肢園の引継業務

札幌市みかほ整肢園の指定管理者として、社会福祉法人麦の子が指定を受け2019年度1年間をかけて、引継を行いました。引継としては、オリエンテーションの出席、みかほ職員との各種協議、PTによる保護者向けミニ講座の見学、個別指導の見学、就学説明会の出席、遠足の参加、三者協議会、行事の参加や見学、理学療法の引継、給食業務、事務の引継等を行いました。専門職による個別指導がメインのみかほ整肢園と、遊びや生活の中での支援がメインの麦の子会、あるいは公立と民間の違いなど、様々な文化や価値観の違いを感じるが多かったですが、無事4月から麦の子会による運営が始まっています。

③コンサルタントによる組織的課題分析とリーダーシップとキャリア研修

組織拡大による組織変革の必要性がここ数年大きな課題としてあがってきています。CSP (コモンセンスペアレンティング) の講師である堀健一氏にもこれまでコンサルの中で指導を受け、スーパーバイズの仕組みを導入したものの、運用が難しく中間層と若手職員との意思疎通が困難になるということもありました。責任感と強いコミットメント、意思決定と実行、マネジメント力という点では中間の層が薄い等の課題認識がありました。

2019年度はこれらの課題解決に向けて、アルファ・アソシエイツ株式会社にコンサル業務を依頼し、若手職員の意識調査やリーダーシップ開発研修、若手女性職員のキャリア意識の研修、40名近くの職員を抽出して一対一のインタビューを行った上で組織的課題の分析を行っていただきました。

今回の研修と課題分析を受け、中期的なスパンでの改革を目指し今後も同社のコンサルを研修を継続し、「ミッションの浸透」「マネージャーのマネジメント力の強化」「若手が生き生きと働ける組織」「労務管理の改善」「人事制度改革」「業務のIT化」を目的として組織改善、組織開発を行っていきます。

④ホームページのリニューアル

2013年に麦の子会設立後2代目になるホームページ新設から6年経過し、内容とデザインの刷新ということで、ホームページのリニューアルを行いました。新HPの新たな狙いとしては、当事者のみならず、日本中のより多くの人に麦の子会が理解されるということを中心にコンセプトに再設計されました。一覧性が若干以前より下がった面はありますが、明るく親しみやすいデザインで、ページの改編も法人サイドで行い易くなっています。記事更新が滞ってしまいがちな運用面の課題は以前としてあるので、次年度以降の改善を図っていきます。

I 法人運営

1. 理事会・評議員会の開催及び監事監査の実施

(1) 役員構成

- ①理事：田村 元（理事長） 山崎千恵美 長内慶一郎（6/22の定時評議員会で退任）
北川聡子 古家好恵 木村瑞穂 高田隆一（6/22の定時評議員会以後）
- ②監事：末永仁宏 向谷地生良
- ③評議員：尾崎祐一 金田光夫 田澤泰明 中原明 長谷川寛治 藤井康弘 光増昌久

(2) 評議員会の開催

定時評議員会（2019年6月22日（土））

- ア. 報告事項
 - (1) 2018年度事業報告

- イ. 審議事項
 - (1) 監事監査報告の件
 - (2) 2018年度計算書類承認の件
 - (3) 理事及び監事選任の件
 - (4) 定款変更の件

(3) 理事会の開催

第1回理事会（2019年5月24日（金））

- ア. 報告事項
 - (1) 業務執行報告
 - (2) 人事報告

- イ. 審議事項
 - (1) 前回議事録承認の件
 - (2) 平成30年度事業報告の件
 - (3) 平成30年度決算報告の件
 - (4) 監事監査報告の件
 - (5) 理事任期満了による次期理事候補者の件
 - (6) 定時評議員日程の件
 - (7) 定時評議員会議案の件
 - (8) 定款変更の件
 - (9) 規程類制定・改定の件
 - (10) 会計監査人設置に向けた本監査に準じた監査業務委託の件
 - (11) 共同生活援助（グループホーム）増設の件
 - (12) サテライト型住居（マーガレットサテライト）付設の件
 - (13) ジャンプレッツ（就労移行支援）工賃適正額検討の件
 - (14) 運営規程・重要事項説明書変更の件
 - (15) 今年度理事会日程の件

第1回臨時理事会（2019年6月22日（土））

- ア. 審議事項
 - (1) 理事長選任の件
 - (2) 常務理事選任の件

第2回理事会（2019年7月26日（金））

- ア. 報告事項
 - (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
 - (2) 人事報告
- イ. 審議事項
 - (1) 前回議事録承認の件
 - (2) むぎのこビル隣接の土地建物購入の件
 - (3) 人材育成コンサルティング契約の件
 - (4) 諸規程類改正の件

- (5) 次回理事会日程の件

第2回臨時理事会 (2019年8月29日(木))

ア. 審議事項

- (1) 運営規程・重要事項説明書変更の件

第3回理事会 (2019年10月11日(金))

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 七飯町「すてきなくじら」営業終了の件
- (3) 給与規程改定の件
- (4) パートタイム就業規則及び給与規程改定の件
- (5) 懲罰委員会規程制定の件
- (6) 運営規程・重要事項説明書変更の件
- (7) 次回理事会日程の件

第3回臨時理事会 (2019年11月11日(月))

ア. 審議事項

- (1) むぎのこビル南側の土地取得の件

第4回理事会 (2019年12月19日(木))

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2019年度第1次補正予算の件
- (3) グループホーム事業用の土地・建物取得の件
- (4) ファミリーホーム新築及び借上住宅のファミリーホーム転用の件
- (5) グループホーム食費変更の件
- (6) 資格取得補助規程制定の件
- (7) 運営規程及び重要事項説明書一部変更の件
- (8) 次回理事会日程の件

第5回理事会 (2020年3月19日(木))

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2020年度事業計画の件
- (3) 2019年度第二次補正予算の件
- (4) 2020年度予算案の件
- (5) 諸規程改定の件
- (6) 運営規程及び重要事項説明書一部改定の件
- (7) 職務専念義務免除の件
- (8) 当別町子ども発達支援センター見積合わせ応諾の件
- (9) 次回理事会日程の件

(4) 監査・指導の実施

実施者	監査実施日	監査項目
末永 仁宏監事	①2019年 5月18日 ②2019年 8月6日 ③2019年 11月15日 ④2020年 2月6日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
向谷地生良監事	①2019年 5月18日 ②2019年 10月9日 ③2019年 12月18日 ④2020年 3月12日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況。
札幌市 ・ 監査指導室 ・ 障がい福祉課 ・ 保健所	2018年7月10日・11日	・ 法人運営 ・ むぎのこ児童発達支援センター ・ 児童デイサービスむぎのこ ・ ハーベストガーデン ・ ショートステイホームむぎのこ ・ 居宅介護事業所むぎのこ
札幌市 (集団指導)	2019年12月11日	障害者自立支援法・児童福祉法による全事業
札幌市児童相談所	2019年10月29日	・ ガブリエルホーム (ファミリーホーム) ・ ベーテルホーム (ファミリーホーム)

(5) 助成・補助金

受入事業所	交付団体等	助成・補助金内容	助成額
法人	高齢・障害求職者雇用支援機構	雇用調整助成金	1,188,000円
法人全体(8事業所)	札幌市	新型コロナウイルス感染症対策に係る特別事業	計288,938円
法人	札幌市	札幌市社会福祉法人会計監査人設置モデル事業補助金	2,000,000円

(6) 主な施設・事業所整備事業

事業所名	工事名	請負業者	工事価格
むぎのこ児童発達支援センター	センター外壁修繕工事	岩田地崎建設(株)	15,120,000円

(7) 入札(一般・指名)執行状況

入札名	落札業者名	契約金額
むぎのこ児童発達支援センター壁修繕工事	岩田地崎建設(株)	15,120,000円

2. 事業運営

(1) 第2種社会福祉事業

- 1) 障害児通所支援事業の経営
- 2) 障害福祉サービス事業の経営
- 3) 小規模住居型児童養育事業の経営
- 4) 移動支援事業の経営
- 5) 相談支援事業の経営

(2) 公益事業

- 1) 診療所の設置経営
- 2) 日中一時支援事業の設置運営
- 3) 札幌市障がい児等療育支援事業
- 4) 当別町こども発達支援センター専門職員指導業務
- 5) 当別町こども発達支援センター発達支援専門員派遣業務
- 6) 認可外保育園の設置経営
- 7) 西尾リプロセス心理臨床研究所の設置運営

II 児童部門（幼児）

むぎのこ児童発達支援センター

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	43	43	45	45	44	43	46	46	47	48	49	50	45.6
北区	20	20	18	19	19	19	21	22	22	22	22	22	20.5
西区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.7
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.7
計	67	67	68	70	70	69	74	75	76	77	77	78	72.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	966	1027	1100	1223	1029	1158	1201	1243	1183	1152	1132	1099	13513

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・発達支援プランは年2回(4月、10月)に作成した。
- ・乳幼児分析的発達検査を用いて、アセスメントを行った。
- ・家庭訪問、面接の記録などで保護者にクラスに対しての意向、要望などの聞き取りを行った。
- ・個別支援計画を保護者に個別に説明し、同意を得た。
- ・半年間モニタリングを行い、評価した。

(2) 主な日中活動

- ・リズム、朝の会、散歩散歩、公園遊び(滑り台)、園庭あそび(ターザンロープ、水運び、水遊びなど) ・設定遊び(毛布ブランコ、布乗り遊び、王様、インディアン、音楽遊び)
- ・親子遊び(おんぶ遊び、わらべうた遊び、くすぐり遊び)
- ・山登り、アート(描画、季節の制作)、クッキング、プール、個別指導など

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	家庭訪問、お誕生会、クッキング、避難訓練
6月	遠足、バザー、お誕生会、避難訓練
7月	お誕生会、海水浴、避難訓練、クッキング
8月	I期終業式、II期始業式、お誕生会、避難訓練
9月	運動会、お誕生会、避難訓練、クッキング
10月	遠足、お誕生会、避難訓練、カーペンター
11月	お誕生会、生活発表会、避難訓練、クッキング
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会、II期終業式
1月	III期始業式、お正月会、お誕生会、避難訓練、クッキング
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練
3月	ひなまつり、卒園感謝会、お誕生会、卒園式、避難訓練、クッキング、終了式・離任式

3. 給食提供

- ・ 1日1食 毎日提供
- ・ 園内の調理場にて調理して提供している。
- ・ アレルギー食、ミキサー食、偏食などに対応した。
- ・ 食生活が少しでも豊かな、楽しい時間となるように取り組んだ。

4. 医療体制

- ・ むぎのご発達クリニックと連携し、発熱、怪我などの場合、瞬時に対応することができた。
- ・ 利用児への投薬にあたっては看護師が巡回した。

5. 施設設備管理業務

- ・ 火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)
- ・ 毎日の園内・園外危険箇所点検
- ・ 園内ワックスかけ年2回

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	園長	氏名	北川聡子	選任届出年月日	2015年4月17日
----	----	----	------	---------	------------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2015年4月17日	最終変更届出年月日	
---------	------------	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年7月2日	2020年1月28日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有・無		整備点検記録の有無	
			有・無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	栄町小学校
施設からの距離	50m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2019・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	2019・10・25	避難・消火・通報・救出・その他
2019・5・24	避難・消火・通報・救出・その他	2019・11・22	避難・消火・通報・救出・その他
2019・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	2019・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
2019・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2020・1・17	避難・消火・通報・救出・その他
2019・8・2	避難・消火・通報・救出・その他	2020・2・21	避難・消火・通報・救出・その他
2019・9・20	避難・消火・通報・救出・その他	2020・3・13	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童発達管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
児童指導員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育士	常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士	非常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
理学療法士	常勤	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
運転手	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		27	27	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	光塩女子短期大学保育科	5月13日～28日	2名
	医療大学心理科学部臨床心理学科	5月27日～31日	2名
	経専北海道保育専門学校	6月10日～14日	2名
	せいとく介護こども福祉専門学校	6月17日～	1名
	光塩女子短期大学保育科	7月1日～12日	2名
	医療秘書福祉専門学校	7月1日～12日	2名
	光塩女子短期大学食物栄養科	7月1日～5日、8月19日～30日	4名
	吉田学園北海道福祉・保育大学校	7月8日～22日	2名
	医療大福祉学部	8月6日～7日、8月19日～23日	4名
	札幌国際大学	8月19日～9月3日	2名
	せいとく介護こども福祉専門学校	8月23日～9月6日	1名
	北星学園大学	9月2日～3日	5名
	こども学舎	9月2日～13日	1名
	美芸学園	9月2日～13日	1名
	札幌子ども専門学校	9月17日～10月1日	2名
	北翔大学短期大学部	10月28日～11月11日	2名
	医療大学心理学部	11月11日～15日	1名
	東北福祉大通信課程	11月18日～20日	1名
	藤女子大学	11月18日～29日	3名
	せいとく介護こども福祉専門学校	11月19日～12月5日	2名
	札幌大谷大学短期大学部	2月5日～19日、2月20日～3月5日	4名
	北海道文教大学	2月17日～3月2日	1名
	北翔大学	2月26日～3月10日	3名
	札幌子ども専門学校	2月25日～3月6日	2名

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	研修会名称	参加職員数
4月1日	法人研修	14
4月12日	朝研修「発達支援」	7
4月12日	片桐先生研修(2歳児)	5
4月15、16日	1年目 CSP 養成講座	1
4月18日	法人研修②	13
4月19日	片桐先生研修(3歳児)	3
4月22日	朝研修 武田先生	9
4月22、23日	コンサルテーション	1
4月26日	片桐先生研修(4歳児)	2
5月10日	片桐先生研修(5歳児)	5
5月13日	朝研修 リズム・体づくり	7
5月20日	朝研修 クッキング	10

5月24日	片桐先生研修②(2歳児)	4
5月25日	福祉有償移送運送講習	1
5月27日	朝研修 武田先生	11
6月3日	朝研修 ぞうくんのさんぽ	12
6月10日	朝研修 トラウマ	9
6月12日	堀先生 コンサルテーション	1
6月17日	朝研修 アンガーマネージメント	12
6月18日	センター研修	4
6月21日	片桐先生研修②(3歳児)	3
6月24日	朝研修 武田先生	9
6月26日	援助計画	4
6月28日	片桐先生研修②(4歳児)	2
7月1日	朝研修 水運び	10
7月8日	朝研修 武田先生	13
7月22日	朝研修 アウトドア	10
7月26日	片桐先生研修②(5歳児)	2
7月29日	朝研修 学校教育	9
8月21日	発達段階の研修	7
8月26日	朝研修 武田先生	13
8月26日	リーダーシップ開発研修	1
8月29日	堀先生コンサルテーション	1
9月2日	朝研修 家族システム	11
9月9日	朝研修 武田先生	13
10月4日	若手職員研修(藤原先生)	4
10月7日	朝研修 ソーシャルワーク	10
10月18日	わらべ歌研修	5
10月23日	黒川先生 発達障害の療育	6
10月24日	堀先生 コンサルテーション	1
10月28日	朝研修 武田先生	11
10月31日	リーダーシップ開発研修	1
11月8日	片桐先生研修③(2歳児)	2
11月12日	リーダーシップ開発研修	1
11月13日	センター研修	4
11月15日	片桐先生研修③(3歳児)	3
12月2日	朝研修 武田先生	11
12月10日	センター研修全体研修会	1
12月11日	発達段階の研修	3
12月13日	片桐先生研修③(5歳児)	4
12月16日	朝研修 そりすべり	5
12月23日	朝研修 武田先生	7
1月17日	発達段階の研修	1
1月18日	虐待予防 アンガーマネージメント	11
1月20日	朝研修 ミュージックセラピー	8
1月27日	朝研修 武田先生	7
2月7日	センター職員全体研修	6
2月8日	小野先生研修	4
2月10日	朝研修 武田先生	10
2月17日	朝研修 食事	10
3月9日	朝研修 武田先生	

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月28日～5月1日	IBPF	ボーイズタウン里親支援管理者研修	1名
5月22、23日		全道施設長セミナー	2名
6月27、28日		全国児童発達支援協議会 職員研修	1名
7月26、27日	こひつじ文庫	絵本セミナー	1名
10月5、6日		ボーイズタウン SV 研修	1名
10月13、14日		CDS-J 支援者養成講座	2名
10月15、16日		相談支援・就業支援セミナー	1名
11月25、26日		発達支援部会職員研修	4名

12月2,3日		児童発達支援施設運営協議会	1名
12月7,8日		CSP管理者SV研修	1名
12月21,22日		虐待防止学会	1名
2月1,2日		トラウマフォーカス研修	2名
2月7~9日		アメニティフォーラム	1名
2月17,18日		全道施設長研修会	2名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜	12回		管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
クラス会議	毎週木曜	回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	32人	
ケースカンファレンス会議	毎週月曜	42回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
個別支援計画作成会議	前期・後期	2回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
管理者会議	月1回	12回		管理者	1人	
児発管会議	月1回	12回		児童発達支援管理責任者	1人	
倫理・コンプライアンス委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
安全対策・感染防止委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
苦情処理委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
リスクマネジメント会議	毎月第2水曜	12回		児童発達支援管理責任者	1人	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

- ・発達支援では子どもたちへの支援の関わり方の基礎として職員はコモンセンスペアレンティングを学び、朝の打ち合わせ後、スキル練習を行い、子どもとの関りで職員が出来るように練習を行った。特に効果的な褒め方を療育の中では重点的に行い、クラスでターゲットを決め褒める箇所を重点的に褒めて子どもの自己肯定感を高められるように行なっていた。職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。
- ・家族支援では年齢ごとにコモンセンスペアレンティングをグループカウンセリングの中でお母さん向けに年3回行い、お母さん方が子育ての中で使えるように職員と共に練習を行っていった。またケースカンファレンスで応援計画を作成する事で、子どもとお母さん方のニーズ、支援方法が明確化され、振り返りをする事で今後の課題が分かりやすくなった。
- ・児童発達支援センターとして、市内で統一したセンター研修を開催し、地域の児童発達支援事業、放課後等デイサービス、保育園、幼稚園などとの研修を行い、並行通園しているお子さんの様子や支援の様子を伝えあえるようになってきていた。
- ・書類整備では、内部監査を行っていたことでクラスごとの書類は毎月、その場でチェックを行ったため、職員同士協力し合い整備していく事が出来た。
- ・来年度は引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果的な褒め方をして肯定的なかかわりを行っていけるように努める。また、子どもたちが生活しやすいように構造化にしっかりと取り組んでいく。

保育所等訪問支援

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9.0
北区	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.8
中央区	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0.4
計	12	12	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	13.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	0	1	1	1	0	2	1	1	2	0	3	0	12

12. 評価と展望

- ・アセスメントに基づき、客観的に訪問支援計画を作成した。
- ・訪問支援のニーズを把握し、訪問支援を実施した。
- ・ニーズに応じた、支援量の確保が困難。
- ・学校への保育所等訪問支援のニーズはあるが、人的保障が得られず対応は困難。

居宅訪問型児童発達支援むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区									1	1	1	1	1
北区													
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
南区													
白石区													
豊平区													
中央区	1	1	1	1									1
手稲区													
措置													
計	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	1.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	6	7	8	2	1	1	2	1	6	5	5	1	45

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・個別支援計画は利用開始時に作成し、6か月でモニタリングを行った。
- ・保護者との面接を行い、ニーズの聞き取りを行った。
- ・個別支援計画を保護者に個別に説明し、同意を得た。

(2) 主な日中活動

- ・手遊び、うた、絵本、くすぐりあそび、楽器遊び、いないいないばああそび、手袋シアター、エプロンシアター、バルーンあそび、制作、こむぎこ粘土

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	常勤												
児童指導員	常勤												
指導員	常勤												
保育士	常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
保育士	非常勤												
合計		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

12. 評価と展望

- ・重度の障害や病気の為、集団活動に参加出来ない在宅の子どもへの児童発達支援を行った。
- ・訪問の中で、子どもの状態や体調に合わせた活動を行い、手遊び、わらべうた遊び、くすぐり遊びなどを中心にこむぎの粘土や制作を行って子どもらしい経験を積み重ねられるように工夫を行った。
- ・書類面では必要書類の確認を行い、整備していった。
- ・今年度末で利用していたお子さんが集団に移行でき、利用登録のお子さんがいなくなったが、今後も希望されるお子さんがいた時には、育みの関わりを大切にしながら、子どもらしい経験を重ねられるように、丁寧な関わりを行っていく。

児童デイサービスむぎのこ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	20	21	21	24	25	24	24	24	24	25	25	24	23.4
北区	3	3	5	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.08
白石区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.91
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4.66
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	29	31	33	35	36	35	35	35	34	35	36	36	34.1

(2) 利用延べ人数 22

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	189	265	219	297	274	287	299	299	287	274	274	265	3229

12. 評価と展望

- ・1,2歳児の混合クラス。子ども達をたくさん可愛がり育みを大切に療育を行った。CSPを用い子ども達を沢山褒めることにより適応行動が増えていった。
- ・子どもや母の対応について困難な場合は、マネジャーに相談し解決に繋げた。
- ・家族支援では事業所内相談支援を行い、保護者の精神面を支え、適切なサービスを提供する事ができた。
- ・外部との会議に参加し、連携し子どもの安全を守っていった。
- ・年明けには社会全体のコロナ感染症流行状況を把握し、防止のための対策として換気を行い、室内や玩具の消毒を徹底していった。子ども達は手洗いやアルコール消毒を行った。
- ・コロナ感染症予防の為13時帰りの協力をお願いした。自粛の家庭にはZoomや電話連絡をし家庭の様子を把握していった。

プレイ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	26	28	29	29	31	32	35	36	37	37	37	37	32.8
北区	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.8
計	28	30	32	32	34	36	38	39	40	40	40	40	35.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	214	243	250	279	219	247	268	272	254	259	242	228	2975

12. 評価と展望

【評価】

- ・子ども一人一人に合わせた関わりを心がけ、特に支援の必要な家庭や子どもの状況を職員同士で把握し、支援に反映する事が出来た。
- ・子どもの発達に合わせて設定遊びを行ない、子どもが楽しめるようクラス運営を心掛けた。
- ・子どもがよく発達しても、過度な期待値の設定は子どもにプレッシャーを与える事になると職員が十分理解した上で、3歳児の甘えや自己主張を受け止める関わりを意識出来た。
- ・子どもの理解に合わせて、CSPの予防的教育法での練習を取り入れて、適応行動の増加に繋がられた。
- ・職員研修やSVを通じて、職員一人一人の強みに焦点を当て、課題があれば一緒に取り組み、解決できるように働きかけた。
- ・職員全体でCSPの教育法を用いた支援に取り組んだ。
- ・家族支援の面では、ニーズに合わせて必要な部署に繋げ、制度の利用等も支援した。

【展望】

- ・次年度は、継続して子どもの発達に合わせて設定遊び、療育を心がけていく。
- ・保護者支援も行ない、引き続き必要な支援、制度の利用に繋げていく。
- ・事業所内相談支援を定期的に行なえるように設定していく。
- ・書類の整備に遅れがないよう、職員同士担当する書類の分担を明確にして取り組む。

ヨシア（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	10	9	9	9	9	9	9	9.08
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
計	14	14	14	14	14	15	14	14	14	14	14	14	14.08

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	172	189	200	217	160	212	213	216	206	197	171	191	2344

12. 評価と展望

・子供たちの成長、発達支援と家族支援、地域支援を軸にヨシアの年長さんを次の小学校と言うステージに上がる準備と自信、そして社会スキルを育てるように、コモンセンスペアレンティング（CSP）やヨシアとしてのチームワークを生かして療育した。そして、他のクラスの年長グループと連携して、1月から卒園リズム、縄跳び編み、鬼の面作り、描画などを行い、卒園までの短い期間を、今しかできない体験を通して、社会性や自分たちの仲間づくりを進め、コロナウイルス対策の為に例年のように地区センターなどの会場で大人数では、卒園リズムを披露できなかったが、会場を2つに分

け、年長の集団も2つに分けて、消毒作業と換気をしながら、卒園感謝会と卒園式を行うことが出来た。

- ・年長から1年生になるので、自分で出来る事も増やしながら、年長としてのプライドも育て、効果的に褒めたり励ましたりする機会を増やし、職員が子どもたちをスムーズに褒めれるようにスキル練習を行いながら、毎日の療育に励んだ。
- ・期の途中で、児童発達支援管理責任者が変わったが、子どもたちには影響が少ないように、チームで子供たちを支援し、CSPを使い、褒め、励まし、自尊心を育むことが出来るように配慮した。
- ・子供たちが小学生になるので、その後も継続して支援できるよう、CSPを共通言語として、子どもたちと一緒に成長発達できるチームを目指すことが出来た。

シーランチ（ヨシア内・児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	11.5
北区	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2.8
措置													
計	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15	14.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	158	174	173	182	134	183	180	168	167	156	132	170	1977

12. 評価と展望

【評価】

- ・毎日の登園人数が少なかったが、子ども一人一人に合わせた活動や支援を心掛けた。
- ・CSPを全員が学び、子どもとの関わりに活かして支援した。
- ・支援の必要な家庭については、相談しながら必要な部署や制度の利用に繋げた。
- ・事業所内相談支援の実施や、保護者との面談の中で就学の支援を行なった。
- ・職員が研修に参加する事で必要な知識や学びに繋がられた。

【展望】

- ・子どもが登園出来るよう支援する。
- ・継続してCSPを全員が実践して子どもの支援にあたる。
- ・困り感のある家庭に必要な支援が出来るよう、保護者支援を行なっていく。
- ・職員一人一人がチームで、支援する事を心掛ける。
- ・職員の研修参加を継続して行ない、支援に活かしていく。

セーボネス（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	15	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	14	1.5
北区	2	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1.5
措置													
計	17	18	18	16	16	16	16	16	17	17	17	16	16.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	203	231	225	234	184	205	238	242	221	243	224	233	2,683

12. 評価と展望

【評価】

- ・子ども一人一人の発達に合わせた関わりを心がけた。特に支援の必要な家庭が多く、子どもや家族の状況を職員同士で把握し、支援に反映する事が出来た。
- ・子どもの発達に合わせて設定遊びを行ない、給食準備時間なども必ず設定遊びを行うようにした。
- ・療育場面でCSPを用い、特に効果的に褒めるを職員・パートさんも含めて全員で頻繁に用いるようにした。また、子どもの理解に合わせ、予防的教育法も用い、練習をすることで適応行動につながるように支援した。
- ・職員全体でC S Pの教育法を用いた支援に取り組んだ。
- ・家族支援の必要なケースが多く、要保護家庭の支援もチームで取り組んだ。

【展望】

- ・子どもの発達に合わせた関わり・遊び・設定を行う。
- ・引き続き、職員・パートさん全員でCSPを用いて療育を行う。
- ・家族支援も引き続き行ない、必要な支援、制度の利用に繋げていく。
- ・事業所内相談支援を定期的に行ない、保護者の困り感に寄り添った支援を行う。

スタディ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
北区	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5.5
措置													
計													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	217	235	254	267	207	239	249	247	234	234	226	227	2,836

12. 評価と展望

<運営面>

- ・法令順守して運営できるよう職員配置を整えた。
- ・内部監査を毎月行うことで、職員の不備がないか定期的に確認・整備することができた。
- ・職員研修に積極的に参加し、知識と技術の両面を高める事ができた。
- ・職員間でスーパーヴィジョンを行い、支援の困り感を汲み取り、対応策を練習したり、よい取り組みを褒めて励ます関りをする事ができた。

<療育面>

- ・年中児童の発達に合わせて日々の活動を基本にしなが様々な活動を行い、スモールステップで子ども自身が達成感を持てるように活動を設定した。
- ・年中同士の事業所で交流する機会を多く設け、合同でリズムをしたり、鬼ごっこをするなど大きなグループでの経験をしたり、支援が必要な児童に対して手厚く対応することができた。
- ・C S PのCSALE、効果的な褒め方を中心に、子ども達を肯定的に励まし、自信をつけて活動に参加すること、仲間を意識し、関りを持って遊ぶ場面を作っていく事ができた。

ライオン（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	12	12	12	12	12	13	13	13	12	12	12	12.3
北区	4	4	4	5	6	6	6	6	6	7	7	7	5.7

措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	16	16	17	18	18	19	19	19	19	19	19	18

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	225	228	234	275	212	248	260	261	248	249	222	236	2898

12. 評価と展望

・活動は、長距離散歩や園庭、山登り、雑巾がけなどの身体を動かす遊びをたくさん取り入れた。春は自信のない様子の子どもが多かったが、活動を繰り返すことで、見通しを持ち楽しんで活動に参加できる様子が見られた。制作やクッキング、お誕生会等、特別な活動を楽しみにしている様子が見られた。保育園やこども園に訪問したり見学にきてもらい、併行通園先との情報共有ができた。

・CSP を用いて支援を行った。SCALE や効果的な褒め方を多く取り入れることで、子どもたちも大人への安心感の中で過ごすことができていた。行動の改善が難しい場合には、モチベーションをあげるために、シールや塗り絵を良い結果として用いた。良い結果を楽しみに、問題行動の改善が見られ、適応行動を増やすことに繋がった。自分自身をコントロールする教育法が必要な場面があったが、対応できる職員が少なかったため、ステップを用いたスキル練習が必要であった。

年間を通して、SCALE の関わりを基本とし、予防的教育法を行ってきたら効果的な褒め方を用いるというサイクルができていた。

・家族支援では、事業所内相談支援やお母さんとの面談の中で家庭での困り感を聞き取り、子どもとの関わり方のアドバイスや必要に応じては制度の利用に繋げていった。今年度新入園児のお母さんとは継続的に事業所内相談支援を行えたが、本質的な困り感を聞きだすことが難しかった。登園日数も週1～2回と少なかったため、園と家での子どもの様子も異なっているようだった。

・年中児だったため、就学に向けた不安を話す母が多かった。今後も子どもたちが伸びる可能性があるため焦って考えなくていいこと、年長になったら必要な就学に向けて必要な段取りの説明を行い、「心配なことはいつでも話して」と繰り返し伝えたことで、安心感に繋がれたと考える。

・運営面では、書類は内部監査に向けて、計画的に行うことができた。個別支援計画は、母との面談の計画を細かく立てたことでほぼ予定通り行い、余裕をもって進めることができた。子どもの利用も安定していたため、利用率も高い水準で維持することができた。

ライオン（重心対応）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	135	149	154	177	140	164	153	185	164	136	140	136	1833

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・発達支援プランは年2階(4月、10月)に作成した。
- ・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を用いて、アセスメントを行った。
- ・家庭訪問、面接の記録などで保護者にクラスに対しての意向、要望などの聞き取りを行った。
- ・年2回作成、前期後期それぞれ面接、評価を行なった。

- ・個別支援計画に基づいた療育、保護者に子育てのアドバイスをを行った。

(2) 主な日中活動

- ・朝の会、リズム、公園遊び(水遊び、遊具遊び、雪合戦、そりあそび、シート滑り)散策さんぽ
- ・室内遊び(サーキット、おおかみさん、楽器遊び、王様、たけのこ、ぞうくんのさんぽ)
- ・親子遊び(とっちんかっちん、ぎったんぱっこん、たけんこ、おすわりやす、バス遊び、おじさんおばさん、うめとさくら)
- ・プール、スケート、三角山登り、粘土あそび、クッキング

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式、お誕生会、カーペンター、避難訓練
5月	家庭訪問、お誕生会、クッキング、遠足、父親参観、避難訓練
6月	バザー、お誕生会、避難訓練
7月	お誕生会、海水浴、クッキング、避難訓練
8月	I期終業式、II期始業式、お誕生会、避難訓練
9月	運動会、お誕生会、クッキング、避難訓練
10月	遠足、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
11月	お誕生会、生活発表会、クッキング、避難訓練
12月	もちつき、お誕生会、クリスマス会、II期終業式、避難訓練
1月	III期始業式、お正月会、お誕生会、クッキング、避難訓練
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練
3月	ひなまつり、お誕生会、クッキング、卒園感謝会、卒園式、避難訓練、III期修了式・離任式

3. 給食提供

- ・園内の調理場にて調理して提供している。
- ・アレルギー食、偏食などに対応した。
- ・食生活が少しでも豊かな、楽しい時間となるように取り組んだ。
- ・ミキサー食に対応する

4. 医療体制

- ・むぎのこ発達クリニックと連携し、発熱、怪我などの場合受診を行った。
- ・子どもたちの主治医と連携し指示書をもらい子どもたちの医療的ケアを行う

5. 施設設備管理業務

- ・火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)
- ・毎日の園内・園外危険箇所点検
- ・園内ワックスかけ年2回

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	管理者	氏名	古家健司	選任届出年月日	2019年4月1日
----	-----	----	------	---------	-----------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日		最終変更届出年月日	
---------	--	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年7月2日	2020年月28日	年月日	年月日
消防署への報告	○有・無		整備点検記録の有無	
			○有・無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄町小学校	予定地	ひのまる公園
施設からの距離	700メートル	施設からの距離	700メートル
予定地までの所要時間	15分	予定地までの所要時間	15分
施設からの距離	700メートル	施設からの距離	
予定地までの所要時間	15分	予定地までの所要時間	

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2019・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	2019・10・25	避難・消火・通報・救出・その他
2019・5・24	避難・消火・通報・救出・その他	2019・11・22	避難・消火・通報・救出・その他
2019・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	2019・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
2019・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2020・1・17	避難・消火・通報・救出・その他
2019・8・2	避難・消火・通報・救出・その他	2020・2・21	避難・消火・通報・救出・その他
2019・9・20	避難・消火・通報・救出・その他	2020・3・13	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
機能訓練担当職員	常 勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
児童指導員	常 勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
児童指導員	非常勤	4	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6
看護師	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師	非常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

8. 実習生・介護等体験の受入

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
ケースカンファレンス	毎週火曜日	12回	5回	児発管・児童指導員・指導員・保育士	3名	
クラス会議	毎週金曜日			児発管・児童指導員・保育士	3名	
職員会議	毎月第1木曜日	12回		管理者・児発管・児童指導員	2名	
個別支援計画会議	年2回(前期・後)			管理者・児発管・児童指	3名	

	期)			導員		
児発管会議	毎月最終金曜日	12回	3回	児童発達支援管理責任者	1名	
リスクマネジメント委員会	毎月最終水曜日	12回		児童発達支援管理責任者	1名	

11. 苦情内容及び結果の公表

12. 評価と展望

- ・パンジーのニーズが多くなり定員を6月から8名に増やして活動をしていく。子ども1人1人のニーズに応じて家族支援をしていく事を心掛けて子どもたちと一緒に関わりを持っていく。
- ・子どもたちを効果的に褒めていことを繰り返すことによって子どもたちが自信を持ち自己主張をすることができる。
- ・今年度も引き続き、療育ではコモンセンスペアレンティング、特に効果的な褒め方を重点的に行った。効果的な褒め方は、クラスでターゲットを決め褒める箇所を重点的に褒めて子どもの自己肯定感を高められるように行なっていった。職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。
- ・書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類はその場でチェックされるので大きな混乱なく終わることが出来た。職員同士協力し合い行った。
- ・来年度も、引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果的な褒め方、ターゲットスキル、スキルブックを使う、効果的に取り入れていきます。
- ・子どもたち1人1人の視診や医療的ケアの流れをボードに書いていながらみんなで全員のながらを把握する。

事業所名むぎのこ大通教室（児童発達支援・放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区									3	3	3	4	1.08
南区	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.4
中央区	11	11	12	12	11	11	10	11	11	11	12	12	10.3
計	13	13	14	14	13	12	11	12	15	15	16	17	13.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	191	206	203	207	181	164	183	208	196	246	223	221	2429

12. 評価と展望

【評価】

- ・子ども一人一人に合わせた関わりを心がけ、特に支援の必要な家庭や子どもの状況を職員同士で把握し、支援に反映する事が出来た。
- ・大きな事故や怪我がなく、安全を守る事が出来たことは本当に良かった。
- ・子どもの発達に合わせて設定遊びを行ない、子どもが楽しめるようクラス運営を心掛けた。
- ・異年齢クラスだったが、個々の発達に合わせて関わる事ができた。また、保護者には月1回の事業所内相談支援面接で困り感やニーズを聞きとり、家族支援に繋げることができた。
- ・要保護家庭に対しては児童相談所や保健センター、家庭児童相談室など、連携して支援を行う事ができた。
- ・職員研修やSVを通じて、職員一人一人の強みに焦点を当て、課題があれば一緒に取り組み、解決できるように働きかけた。
- ・職員全体でCSPの教育法を用いた支援に取り組んだ。

【展望】

- ・次年度も引き続き、安全に気をつけながら、個々の発達にあった支援をおこなっていく。
- ・引き続き、事業所内相談支援面接をこまめに行い保護者の困り感に寄り添っていく。
- ・書類の整備に遅れがないよう、職員同士担当する書類の分担を明確にして取り組む。

ライラック（児童発達支援）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10.6
北区	4	4	4	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3.8
白石区						1	1	1	1	1	1	1	0.6
中央区						1	1	1	1	1	1	1	0.6
計	15	15	15	14	14	16	17	16	16	16	16	16	15.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	187	185	196	228	158	238	246	241	216	230	192	204	2521

12. 評価と展望

<運営面>

- ・前半は並行通園など利用人数が少なかったが、9月に大通教室の年長児を2名受け入れて安定した運営を行う事ができた。次年度は早期に運営管理を行う。
- ・札幌市の監査を受けた。事前の書類整備には他事業所の職員にも大勢から助けをもらい、大きな指摘事項無く無事に終える事ができた。
- ・途中入園児の契約や発達支援プランの更新時期など計画的に面接を行う事ができ、保護者の同意を受けるまでがスムーズに行えた。

<療育面>

- ・年長クラスとして、雑巾がけや花の水やりなど、部屋をきれいにしたり生き物を大切にしている活動を行った。
- ・当別町の旧中小屋小学校での芋植えやお泊り会、三角山登りなど自然に触れる活動を行えた。
- ・クラス単体でのリズムが春は難しく、他の年長クラスと交流してリズムを繰り返すうちに、徐々に自信をつけて1月からの年長リズムは意欲的に参加出来る児童が増えた。
- ・グループカウンセリングに担任も参加して保護者の困り感に寄り添ったり、アドバイスをすることができた。グループカウンセリングに参加出来ない保護者に対しても個別に事業所内相談を行ったり、電話や送迎時の引継ぎなど工夫して相談支援を行った。
- ・困り感のある家族に対しては緊急電話での対応や家庭訪問など夜間や休日にも対応し、保護者が安心して職員を頼る事に繋がった。
- ・後半は特に、個別対応が必要な児童が増えたが、職員同士が児童の状態や家族の背景を共有し、役割分担をして関わる事ができた。
- ・年度末は新型コロナの影響でサービス時間短縮をし、予定通りに活動を行う事が難しかったが、職員が協力して卒園式を行い、門出を送り出すことができた。
- ・毎日「指示に従う」「落ち着く」などグループや個別でスキル練習を行った。練習をすることで意図的に褒める回数を増やし、子ども達との関係性を良いサイクルに回るように働きかけた。

Ⅲ 児童部門（学童）

児童デイサービスむぎのこ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	26	28	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	27.9
北区	9	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11	10.2

西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区						1	1	1	1	1	1	1	0.6
手稲区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	41	44	45	44	44	45	45	45	45	46	46	46	44.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	254	267	281	309	269	270	284	299	287	277	266	256	3319

12. 評価と展望

- ・ 異年齢クラスなので、年齢や発達に合わせた活動を意識した。
- ・ 仲間を意識できるよう、子ども同士で手を繋ぐ機会を増やした。
- ・ CSP をベースに、予防的教育法、効果的な褒め方を意識して関わりを持った。
- ・ 子どもたちが見通しを持って活動出来るように、構造化を徹底した。
- ・ ショートステイ、ヘルパー、クリニック等と連携し、子どもの発達支援や家族支援などを多面的な視点で行った。相談室と連携をとり、子どものQOLの向上のために何が必要であるかを話し合った。
- ・ 学校のクラス担任と電話連絡でやりとりを行い、学校や事業所での様子を話し合い、本児の困り感や家庭での様子等を共通認識し、支援の方向決めを行った。
- ・ 職員も子どもも日々のスキル練習を行うことで、効果的な褒め方を行う場面を増やした。また、職員全体で子どもの困り感や褒めるポイントもクラス会議等で話し合った。
- ・ 次年度はさらに環境を整えて、新規契約児童も安心して、安全に楽しんで放課後の時間が過ごせるよう支援する。CSP をベースにたくさん褒めて自信に繋げていきたい。

児童デイサービス ジャンプレッツ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	228	234	248	273	211	230	285	258	247	237	227	246	2924

12. 評価と展望

- ・ 今年度は、小学5年生から高校2年生までの15名のクラスでした。
- ・ 保護者との面接や日常の本児の様子からアセスメントを行い、個別支援計画を作成した。それを軸に子ども達が社会に出ていく際に必要なスキルの獲得を目指し支援を行っていった。
- ・ 支援方法として、CSP をベースに、子ども達の一人一人の状態、発達・発育状況、障害程度や家族・家庭環境などを、ケースカンファレンスやクラス会議を通して周知・検討を行った。職員集団でどのような関わりを大切にしていけるかを話し合いながら、方針を決めていった。
- ・ 前年度までに職員全員がCSP 初級講座を受講することができた。また、会議やSV の中で、職員がCSP の各教育法をステップ通りに使えるように練習をし、子どもと関わる時の共通言語として用いる事ができている。また、パート職員に対しても、支援に入る前にスキル練習を行い、職員と共通の方法で子ども達と関わる事を目指し、取り組んでいた。
- ・ 朝の打ち合わせ後に前日に難しかった場面を振り返り、今日成功するためのスキル練習を行い、職員の学びに繋げ、実際の療育場面に活かすことができた。
- ・ 実際にパート職員を含め、全スタッフがCSP の教育法を意識した関りを行い、特に子ども達の適応緒行動を見つけて、効果的に褒める場面が増えている。
- ・ 職員同士でSV 体制を作り、そのSV を行いながら、FB や子どもへの関わり方など細かいところで職員の情報共有など

を行う。

- ・クラスの構成メンバーの年齢・発達の差が大きく、子ども一人一人に合った対応を個々に決める必要があった。特に食事や着脱の場面では、どの子にはどこまでの介助が必要かを話し合っていて決めていった。甘えを受け止め、自己主張を引き出すこと、友達を意識して一緒に活動を行うことを意識した療育を行った。
- ・給食では、食物アレルギーがある子がいたため、安全に十分配慮し、法人で作られたアレルギー防止マニュアルに沿って、食事提供を行った。また、偏食の子どもは、改善がみられ、安全に給食を提供できた。
- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類面も法人内で毎月内部監査を行い他事業所の目で書類をチェックしてもらうことで、気づかなかつたミスもチェックする事が出来、より正確な書類整備ができた。
- ・発達支援のほか、相談課と連携し、保護者へのグループカウンセリング、C S P 講座、個別カウンセリングや毎月の母親向けの学習会、毎週土曜日にむぎパパの会というパパ向けの学習会、グループカウンセリングなどの支援も行った。

プレイ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
北区	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4.58
中央区			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.83
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	21	21	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	22.41

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	235	250	261	271	212	233	276	259	248	236	218	205	2904

12. 評価と展望

【評価】

- ・全員が小学校入学する新1年生のクラスだったので、スケールに力を入れて、すでに出来ている行動を効果的に褒めて、子どもたちが安心感、安全感持って事業所に通うことを第1に考えて関わり、信頼関係を築いた。
- ・学校で過度の緊張や自尊心の傷つき体験をして、放課後に利用する子どももいたので、受け入れ時には目を合わせて承認することを全職員で行えるように、クラス会議や職員のSVを通して話し合っていて練習して取り組んだことで、来所時に職員と目を合わせて学校や家庭での出来事を話す子が多かった。
- ・夏からフロント制度やコの字のテーブル配置を取り入れて構造化を強めたことで、職員の役割分担が明確になり、子どもたちが落ち着いて過ごす時間が増えた。
- ・ひとりひとりのターゲットスキルを決めて個別に練習し、ミーティングではグループに分かれて「あいさつをする」「助けを求める」「落ち着く」「指示に従う」「許可を得る」社会スキルのどれかを必ず練習した。挨拶と助けを求めるスキルは8割獲得することができた。
- ・養育困難家庭は、相談室、クリニック、児童相談所などの関係機関や、上司と連携して支援を行った。

【展望】

- ・新年度も引き続き、養育困難家庭は関係機関や上司と連携して支援を行い、子どもたちが社会スキルを身につけて人と共に楽しく生活を送っていけるように教えて練習し、寄り添って話を聞く支援をしていく。

ライオン（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	50	50	50	51	52	52	52	52	52	52	52	52	51
北区	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	59	59	59	60	61	61	61	61	61	61	61	61	61

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	259	272	279	298	270	273	281	290	283	260	285	255	3305

12. 評価と展望

- ・発達支援では子どもたちへの支援の関わり方の基礎としてコモンセンスペアレンティングを学び、朝の打ち合わせ後、職員同士でスキル練習を行った。また、学校から帰って来てからの流れとしてコンサルテーションでフロントシステムを学び、どの職員がやっても同じような関りができるように手順書を作成して実行をしていった。導入後からは子どもたちにどのような行動を取ってほしいのか職員同士が共通の認識を持つことが出来たり、決まっている褒めるポイントを逃さずに声をかけることが出来た。1人1人のターゲットスキルも見える化したことで褒める機会が増え、子どもの自己肯定感へとつなげることが出来た。今後も予防的教育法を繰り返し用いてから子どもの適応行動に目を向けた関りを行っていききたい。
- ・家族支援では月1回の事業所内相談支援や保護者が迎えに来た時に学校や家での様子を聞いていった。一年生のクラスということもあり、学校を休んだ時に保護者の困り感や不安が大きくなりやすかったので学校支援を行っている教育支援部長とも情報を共有しながら連携して支援を行うことが出来た。
- ・運営面では書類は内部監査に向けて役割分担しながら計画的に進めることができた。土曜日も開所しているので記録をためないように担当した職員に声をかけていったが作成が滞ることもあったので継続した声掛けや見える化して締め切りを守れるような仕組みを作っていきたい。利用状況については土曜日のニーズが高く、安定した利用率を保つことが出来た。
- ・園内研修や園外研修など様々な研修に参加し、それぞれの職種にあった専門性を学ぶことが出来た。

ヨシア (放課後等デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	15	15	14
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置													
計	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	21	21	20

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	424	216	214	226	175	215	194	200	195	199	157	152	2567

12. 評価と展望

- ・2年生の放課後等デイサービスとして、構造化、CSPを中心に意識してクラス活動を行った。
- ・発達がバラバラな中、適応行動に注目して、効果的な褒め方を中心に肯定的に関われるように、職員間でスキル練習を行い、予防的教育法、効果的な褒め方、問題行動を正す教育法を練習した。
- ・活動は室内では、子ども達が楽しめるように設定のバリエーションを多くして月に一回クッキングや制作活動を取り入れた。外活動では、公園遊びを中心に取り入れた。
- ・不登校のこどもへの支援で保護者や学校と連携を取り、学校で子どもが安心して、過ごしていけるように支援を行った。
- ・園内研修、園外研修に参加し、自己研鑽に務めることができた。」
- ・次年度もクラスの構造を意識し、子ども達の発達にあった支援を行えるように、日々のセットアップ、フィードバック、スキル練習を行い、PDCAサイクルを回していく。

シーランチ (放課後等デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	14	15	16	16	16	15	14.6
北区	7	7	7	7	7	7	9	9	9	9	9	9	8
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	22	22	22	22	22	22	24	25	26	26	26	25	23.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	186	229	241	236	200	206	238	227	231	205	181	166	2546

12. 評価と展望

- ・他学年クラスで、発達にもばらつきがあったのでグルーピングを行って活動を分ける様にした。
- ・宿題が学校から出ていない子にも、発達に合わせてひらがなのなぞり書きや運筆、点つなぎなどの学習支援を行った。
- ・発達に合わせた活動として、夕の会、戸外活動・設定遊び、帰りの会を行うグループは、設定活動では個々が主人公になって活動に取り組めるように、適応行動を職員がモデルになって、見せて話したり、子どもの行動を効果的な褒め方で褒めたりした。
- ・スキル練習の取り組むことが難しい子には、練習へのモチベーションが上がるようにポイントの付け方を個々に合わせるなど個別対応を行った。
- ・プレーメン館内のクラスと連携し、発達に合わせた活動が出来る様に交流を行った。
- ・プレーメン館内のクラスと連携し、着脱や排泄に介助が必要な児童に対しては同性介助を行った。
- ・コロナウイルスによる緊急事態宣言による休校に対応した。
- ・コロナウイルスによる緊急事態宣言により、登園自粛をする児童が多く、2月、3月の利用人数に大きな落ち込みがあった。次年度は、オンライン・電話連絡による例外的報酬算定を行うことで利用率に繋げていく。

チェリーブロッサム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	33	33	33	33	33	33	33	34	35	35	35	35	33.7
北区	11	11	11	12	14	13	13	13	13	13	13	13	12.5
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
豊平区	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
石狩郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
措置	2	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3.4
計	49	50	50	51	53	52	52	53	54	54	54	54	52.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	217	257	242	253	231	221	284	260	250	237	237	237	2926

12. 評価と展望

- ・中・高校生の事業所として療育を行った。前年度から引き続き契約の子が多く、活動の見通しが持てている子が多かった。新たに契約した子や、特別に配慮が必要な子など、環境になれるために時間がかかる子にはその都度ケースカンファレンスや個別での対応を行った。
- ・不登校の支援があるため、午前中から英、国、数を中心とした学習を行った。また、理科の実験や社会の教科も月一回の頻度で行うことが出来た。個々の学力にばらつきが大きい為難しい面もあったが、発達に応じた学習を行なう事が出来た。
- ・夏季はごみ拾い、冬期は除雪作業を行い、地域への奉仕活動を行った。
- ・朝の会、ミーティングに社会スキルのスキル練習を取り入れ、毎日の練習を行った。また、個別にも社会スキルの練習を行った。

- ・不登校支援として、お迎えや家庭訪問を行った。
 - ・グループカウンセリングの際など、進路の悩みを聞き、アドバイスを提示することが出来、学校と連携して進路指導を行うことが出来た。
 - ・今後も、思春期の悩みを抱えた子ども、保護者の方へ、丁寧な関わり行っていく。具体的には、事業所内相談支援やグループカウンセリングなどで話を聞く機会を設けていく。子どもへの支援では家庭訪問や個別の時間を設けて気持ちを表現できるようにしていく。
- 学業では発達に合った課題を提示して、本人が達成感を持てるように配慮し、自己肯定感や自信に繋げていけるように職員が一致して支援していく。

スカイブルー（午前）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	24.5
北区	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.6
措置													
計	18	18	19	20	21	21	21	21	21	21	21	21	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	220	240	224	260	216	235	261	219	230	208	221	171	2705

12. 評価と展望

- ・スカイブルーは、発達障害の児童、不登校の児童と学年は多学年の事業所である。活動は、集団での設定活動が中心に行ない、一日のスケジュールに沿って活動している。活動の内容によっては、グループ分けをするなど、ひとりひとりの発達やニーズに合わせて、外活動、制作や実験などを行なうこともある。こどもたちは、朝の会でのわらべ歌遊びや手遊び、絵本の時間には集中し活動することが出来ている。また、週に1日の音楽タイムは特に人気で、子ども達から「あした、音楽！音楽やりたい」という声が聞かれる。今年度はハンドベルにも挑戦することが出来た。
- ・コモンセンスペアレンティングの教育法を用いて子ども達のターゲットスキルに基づいてスキル練習や日々の活動での効果的なほめ方、予防的教育法、問題行動を正す教育法を中心に取り組んでいる。特に、問題行動に注目するのではなく、ターゲットスキルのスキルが出来た時や、すでに出来ていることを効果的に褒めることを大切にしている。また、SCALEでの関わりもこどもに合わせて取り組んでいる。また、保護者向けのCSPをグループカウンセリングの前に月に1日行なっている。
- ・家族を孤独にしないように、お母さんたちがお迎えに来るときなど会話を多くするようにし、家庭での困り感などに寄り添って行けるように心掛けた。緊急携帯に連絡が来た際には、家庭に行きショートステイの利用に繋げて、こどもが安心して過ごすこと、家族の心身の負担を軽減できるよう支援が出来るようにした。

スカイブルー（午後）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	12.5
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置													
計	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	14.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	173	179	184	199	156	171	215	211	189	190	179	167	2213

12. 評価と展望

- ・午後スカイブルーは小学校3年生15人が利用した。新学期から6月までは移動や集合することが難しかったが受け入れ時に個別のスキル練習をしてたくさん褒める回数を増やすことによってお互いの信頼関係が付き活動を楽しめるようになった。
- ・学校や家庭での困った事や辛かったことを子ども達から伝えてくれるようになり、母とも話合いとCSPを通して共に子育てを前向きに出来るようになった。
- ・仲間意識のあるクラスでCSPを通して思いやりや助けあう気持ちをさらに強めるように引き続き肯定的な関わりを行っていきたい。

トゥモロー

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

(2) 利用延べ人数

(単位 10 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	218	230	200	220	192	223	281	246	242	229	217	219	2717

12. 評価と展望

- ・後半からクラスの構造化をみなおして
 - ・椅子をコの字において朝の会、カウンターを行う
 - ・設定活動を持続する
 - ・職員の指示を短く、静かに徹底する
- を行いクラス全体が落ち着き、楽しさがました。
- ・CSPを職員で意識して行っていて、特に効果的に褒めることがクラス全体で増えていた。
 - ・クラスの問題を後半は特にマネージャーにセットアップして解決することが出来た。
 - ・パニックが多い子どもについて対応が難しいときに助けをもとめたり、落ち着く方法を決めて行い、子どもが安心して落ち着けるように連携して対応した。
 - ・クラスのお母さんグルカンを1回しか開催しなかったので、次年度は年数回をめざして計画していきたい。
 - ・キャンプやスキーなど季節に合わせた活動が出来て活発に参加出来ていた。
 - ・SVが定期的に行うことが難しかったので、次年度は計画的に行いたい。

グリーン

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	
北区	6	6	6	6	6	5	4	4	4	4	3	3	
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
措置													
計	37	36	36	36	36	35	34	34	34	34	33	33	

(2) 利用延べ

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	366	369	396	434	343	331	425	387	352	343	299	320	4365

12. 評価と展望

- ・小学校4年生のクラスとして療育を行った。職員の入れ替えがあり、子ども達は環境の変化を受け入れるのにやや時間を要したが、徐々に落ち着き、活動を行なうことが出来るようになってきた。
- ・学習支援では学校によって宿題の難易度が異なる為、難しい課題があった時は、助けを求めて個別対応を行い、学習に取り組む事が出来ていた。
- ・活動は戸外活動と室内活動に分かれて行った。それぞれの設定活動前に指示に従う練習、いいえを受け入れる練習を行なう事で、指示に従うことが徐々に出来るようになってきた。また、スタンプの良い結果を用いることで適応行動が増えいき、よい行動に導くきっかけとなった。
- ・発達支援プランは年2回作成し、子どもの年齢や発達に合わせて社会スキルを身に付けられるように支援を行った。また、面談時に保護者の意向を聞き、ニーズに合わせてショートステイやヘルパー、相談室、学校など関係機関と連携して支援を行うことが出来た。今後も継続して、他機関との連携を図りながら、家族支援を行っていきたい。
- ・次年度は新5年生のクラスになる。子どもの実態や行なってきた家族支援、クラス会議やケースカンファレンスなどの会議の内容を次年度のクラス担任に引き継ぐと共に、次年度担任と一緒にチームで利用者や家族をまた、子どもたちが学校など社会で成功するためにスキル練習を日々行っていきたい。
- ・コロナウイルスによる緊急事態宣言による休校に対応した。

野の花

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	17	17	17.3
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区													
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	201	212	225	233	195	219	267	250	215	226	189	214	2646

12. 評価と展望

評価

- ・個別対応の必要な子どもたちもいたが、マンツーマンでの対応の他、スキル練習、結果について親とも協力して取り組むことで子どもの暴力や暴言が減った
- ・職員同士の声のボリュームや、話し方が落ち着かない原因になっていることもあり、日々2の声でゆっくりと話す練習を繰り返した
- ・活動では、野球の活動を取り入れることで、子ども達も公園で身体を動かす機会が増えていった次年度に向けての改善点
- ・職員が落ち着いて2の声で話すことや、落ち着くスキルを継続していくことが必要である
- ・教育法をステップ通りに正確に行っていく。
- ・問題行動に注目せず、日ごろの会話を意識して行い、関係性を築いていく

野の花 第3単位

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	37	38	38	38	38	37	37	37	36	36	36	36	30.8
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
措置													
計	41	42	42	42	42	41	41	41	40	40	40	40	41

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	220	256	230	267	237	214	259	232	256	221	217	195	2804

12. 評価と展望

- ・落ち着いた学習に取り組めるように、クラスの構造化や環境整備を意識し取り組んだ。引き続き、子どもの基礎学力を高める学習資料を中心に環境整備を行っていく。
- ・CSPの予防教育を丁寧に行い、適応行動に良い結果(ポイント表)を有効に用いて、効果的に褒めて子ども達の学習意欲に繋げることができた。次年度も予防教育・効果的な褒め方を用いて子どもの自己肯定感を育み、着実に学習の基礎を積み上げていくように支援する。
- ・勉強の事業所ではあるが、塾ではないので、こちらから過度に進学を勧めない。
- ・CSPの「指示に従う」「許可を得る」などの社会スキルと共に、清潔に保つ等の生活スキルを引き続き身につけていくように支援する。
- ・学年ミーティングで、子ども達が悩みを共有し、お互いを支え合う関係を築けるようになってきた。引き続き、学年ミーティングを通して仲間づくりを大切に療育を行っていく。

ライラック (放課後デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14.6
北区		1			1							1	0.25
手稲区				1	1					1		1	0.25
措置													
計	15	16	15	16	16	15	15	15	14	15	14	16	15

(2) 利用延べ人数

(単位 10人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	177	188	192	215	184	201	232	208	182	196	176	155	2306

12. 評価と展望

- ・3年生のクラスということもあり、CSPをベースにした療育を行った。
- ・職員も毎日、CSPの効果的な褒め方、予防的教育法を練習し行い、職員がパートさんにも毎日スキル練習を行い、子ども達を褒める習慣が出来て、子ども達も誉め言葉を受け入れるスキルが身につけてきた。
- ・学校、保護者と連携をとり、登校支援を行うことが出来た。
- ・活動は月ごとにクッキング、製作等、時々変化をつけて設定し、子どもたちが協力しあい楽しむ経験を増やすことが出来た。また、活動前に必ず予防的教育法、活動後は効果的な褒め方で褒めることを行い、子どもたちが社会スキルを身に付けることが出来るよう支援を行った。
- ・クラスの子ども達に発達にばらつきがあったが、適応行動をとった時に効果的に褒める、スキルブックを用い視覚支援を行うことで、発達に関わらず適応行動が増える様子が見られた。又、お母さんたちとの面談、子どもとの面談を行い、支援の個別化を行うことが出来た。
- ・園内研修や園外研修など様々な研修に参加し、自分の専門性を広げていく事が出来た。

ユスタバ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
北区	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.5
措置													
計	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	210	227	226	246	212	206	237	225	207	213	167	177	2553

12. 評価と展望

- ・子どもの対応がクラスで難しいときに助けを求めたり相談しながら連携して対応した。
- ・職員とパートさんと毎日、c s pの効果的なほめ方、予防的教育法を練習し子どもたちを褒める習慣ができた。
- ・毎日、繰り返しスキル練習を行うことで職員も子どもも少しずつ社会スキルを身に着けることができた。
- ・活動は月ごとに、クッキング、制作等日常に変化をつけて設定し子どもたちが仲間と楽しむ活動を経験することができた。
- ・学校と連携をとり学校支援を行うことができた。
- ・s vが定期的に行うことが難しかったので次年度は計画的に行いたい。

スタディ (放課後デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区		19	19	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19.6
北区		5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
措置													
計		24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23.8

(2) 利用延べ人数

(単位 10人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	190	233	227	242	182	205	253	250	222	233	192	190	2619

12. 評価と展望

- ・高学年(5年生)ならではの難しさもあったが、CSPをベースに家庭と連携を取り合い子どもの発達に合った療育を行った。
- ・職員、パート職員もCSPのスキル練習を毎日行い習慣付くようにしていった。
- ・学校や家庭と連携し、学校支援等も行った。
- ・活動は、公園などの戸外活動の他、
- ・毎月1回行うクッキング制作では季に合ったものを取り入れていき、発達に合った活動を行うことが出来た
- ・子ども達の発達にばらつきはあったが、活動前に予防的教育法を行うことで適応行動が増え、その行動を効果的に褒める場面が多かった。
- ・保護者と細かく連絡を取り合ったり、お迎えの時に家庭の様子を聞くことで、連携して療育を進めることが出来た。
- ・次年度は6年生なので、子どもの小さな変化に気付きキャッチできるように、個別に会話を持つ時間を意識的に持つようにし、問題の早期に見つけられ対応できるようにしていく。

ピッピ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	15	15	15	15	15	15	16	16	16	15.0
北区	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	8.5
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
措置													
計	23	23	23	24	24	24	24	24	24	25	24	24	23.8

(2) 利用延べ人数

(単位 10 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	140	143	170	192	123	152	201	196	182	197	179	136	2011

12. 評価と展望

- ・小学校6年生のクラスで思春期等難しさもあったが、CSP をベースに家庭と連携を取り合い子どもの発達に合った療育を行った。
- ・職員、パート職員もCSP のスキル練習を毎日行い習慣付くようにしていった。
- ・学校や家庭と連携し、学校支援等も行った。
- ・活動は、公園などの戸外活動の他、毎月1回行うクッキング制作では子どもの発達に合った活動を行うことが出来た
- ・子ども達の発達にばらつきはあったが、活動前に予防的教育法を行うことで適応行動が増え、その行動を効果的に褒める場面が多かった。
- ・登園が難しくなっている家庭に連絡を取り合ったり、お迎えの時に家庭の様子を聞くことで、連携して療育を進めることが出来た。
- ・次年度も小学6年生の事業所になるので、子どもの小さな変化に気付きキャッチできるように、個別に会話を持つ時間を意識的に持つようにし、問題の早期に見つけられ対応できるようにしていく。

IV 児童部門（生活支援）

日中一時支援事業むぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	58	72	80	75	75	75	90	88	89	84	102	92	81.7
前年度	84	80	85	88	86	91	88	85	83	86	103	90	87.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	391	565	692	773	698	654	925	939	704	779	874	808	8802
前年度	842	853	1022	940	820	1015	1004	933	757	913	952	846	10897

日中一時支援事業ヨシア

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	22	20	20	20	20	20	19	19	19	20	19	19	19.8
前年度	19	19	17	16	17	17	17	17	17	17	17	18	18.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	194	260	297	273	200	237	318	316	217	194	243	228	2977
前年度	265	299	268	242	177	251	282	258	213	185	248	212	2900

日中一時支援事業スタディ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計	17	17	15	16	15	19	18	19	17	18	16	16	16.9
前年度	23	23	24	25	25	23	23	24	23	26	27	25	24.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	148	158	174	184	154	189	208	189	167	182	181	160	2094
前年度	225	239	281	291	245	294	278	291	217	304	312	266	3243

日中一時支援事業 セーボネス

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	38	42	38	35	36	36	35	36	36	38	36	38	37.0
前年度	37	37	39	36	40	40	41	41	39	42	43	42	40.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	358	419	432	425	383	361	480	455	337	397	412	365	4824
前年度	367	419	488	424	373	467	479	440	373	425	419	395	5069

ショートステイホームむぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	158	160	162	168	169	171	174	175	177	178	178	180	170.8
北区	46	46	47	50	50	51	52	52	53	53	53	54	50.6
西区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
南区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
白石区	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.8
豊平区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
中央区	9	9	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10.6
手稲区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
措置	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9	9	9	8.0
計	235	237	242	253	254	257	261	262	265	267	267	270	255.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	221	221	200	256	279	266	275	297	296	266	233	263	3073

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・短期入所計画作成
- ・安全マニュアル作成

(2) 主な日中活動

- ・起床・洗面・着替え・朝食・送迎
- ・送迎・夕食・入浴・くつろぎ・睡眠
- ・休日はむぎのこの園庭、ホール、公園などでの活動

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

- ・特になし

3. 給食提供

給食提供形態	<p>○1日3食・毎日提供(利用者がいる場合に限る)</p> <p>【食事時間】朝食:7:00~7:30 昼食:12:00~12:30 夕食:18:00~18:30</p> <p>○食事の提供に当たっては、利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行うとともに、利用者の年齢及び障害の特性に応じた、適切な栄養量及び内容の食事の提供を行うため、非常勤の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。</p>
給食費	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食 250円 ・昼食 390円 ・夕食 450円

4. 医療体制

診療科目	病院名
精神科	むぎのこ発達クリニック
小児科	むぎのこ発達クリニック
緊急時	嘱託医田村 Dr. に指示を仰ぎ病院に引き継ぐ

5. 施設設備管理業務

施設設備の修理・工事	① 壁・扉の修理 ② 室内の鍵の取り付け
施設設備の保守点検委託業務	暖房設備・スプリンクラー保守点検
施設設備の管理業務	① 外回り清掃(随時) ② 除雪(随時)

	③ 排雪（市川造園により 12～3 月に 12 回）
--	----------------------------

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名		氏名	竹内 透	選任届出年月日	2017 年 11 月 1 日
----	--	----	------	---------	-----------------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	2018 年 1 月 16 日	最終変更届出年月日	
---------	-----------------	-----------	--

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019 年 7 月 2 日	2020 年 1 月 28 日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無		整備点検記録の有無	
	有 ・ 無		有 ・ 無	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第 1 次避難場所		第 2 次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	日の丸公園
施設からの距離	130m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	4 分	予定地までの所要時間	15 分

(6) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2019・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	2019・10・30	避難・消火・通報・救出・その他
2019・5・27	避難・消火・通報・救出・その他	2019・11・22	避難・消火・通報・救出・その他
2019・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	2019・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
2019・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2020・1・24	避難・消火・通報・救出・その他
2019・8・23	避難・消火・通報・救出・その他	2020・2・21	避難・消火・通報・救出・その他
2019・9・26	避難・消火・通報・救出・その他	2020・3・17	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・ 暖房器具の清掃
- ・ 防災絨毯・防災カーテンの設置
- ・ 災害時の備蓄品の整備
- ・ 災害時におけるマニュアルの作成

7. 職員配置状況

		4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	非常勤	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
看護師	常 勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
栄養士	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	常 勤	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計		38	35	35	36	36	34	33	34	34	33	33	34

(人)

8. 実習生・介護等体験の受入

・特になし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019.4.1	むぎのこ	法人研修	6名
2019.4.12	むぎのこ	法人研修②	2名
2019.6.24	むぎのこ	朝研修 自閉症スペクトラム指標テスト	1名
2019.8.26	むぎのこ	リーダーシップ開発研修	1名
2019.10.31	むぎのこ	リーダーシップ開発研修	1名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019.12.16、 18	札幌市自室支援協議会子ども 部会	支援力向上セミナー	1名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加 人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜日	12回		管理者・生活指導員	1名	
ショートむぎ職員会議	月1回	12回		管理者・生活指導員	2名	
環境整備委員会	月1回	12回		生活指導員	1名	
感染防止委員会	年4回	4回		管理者	1人	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

- ・パート職員も含めて CSP の学習会を行い、CSP を用いて子ども達に肯定的に関わっている。
- ・毎月アンガーマネジメント講習を行い、各自落ち着きプランを設定して、逃げる練習、助けを求める練習、落ち着く練習を行い虐待防止に努めた。
- ・児童相談所からの一時保護委託を受け入れや、要保護家庭の緊急受入れを速やかに行った。状況に応じて家族支援会議を行い、各部署、関係機関との連携や支援内容の向上に努めた。
- ・継続して利用しているお子さんも、必要に応じて支援会議を行い支援の方法を見直した。
- ・毎日の打ち合わせと引継ぎ時に予防のスキル練習、逃げる練習を行い虐待防止に努めた。
- ・てんかん発作のあるお子さんや、重心のお子さんを受け入れ、医師や看護師など、医療とも連携し支援を行った。
- ・1歳～2歳台の低年齢のお子さんの受け入れの際に年齢や発達に応じて環境を整備した。
- ・今後も要保護家庭や一時保護などの緊急の受け入れが予想される。医療の必要な方の見学や問い合わせもあり、利用者さんのニーズを聞き取り、対応できるように関係部署と連携を取っていく。

ショートステイホームピース

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	170	171	172	175	176	177	179	183	185	186	186	187	179
北区	46	47	47	49	49	50	51	51	52	52	52	52	49.8
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
豊平区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
中央区	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	10.3
計	244	247	249	254	255	257	260	264	268	269	269	270	259

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	289	251	317	371	351	304	325	360	361	320	316	357	3922

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・短期入所計画作成
- ・安全マニュアル作成

(2) 主な日中活動

- ・起床・洗面・着替え・朝食・送迎
- ・送迎・夕食・入浴・くつろぎ・睡眠

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

- ・特になし

3. 給食提供

給食提供形態	○1日3食・毎日提供(利用者がいる場合に限る) 【食事時間】朝食:7:00~7:30 昼食:12:00~12:30 夕食:18:00~18:30 ○食事の提供に当たっては、利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行うとともに、利用者の年齢及び障害の特性に応じた、適切な栄養量及び内容の食事の提供を行うため、非常勤の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。アレルギーにも対応した。
給食費	・朝食 250円 ・昼食 390円 ・夕食 450円

4. 医療体制

診療科目	病院名
精神科	むぎのこ発達クリニック
小児科	むぎのこ発達クリニック
緊急時	嘱託医田村Drに指示を仰ぎ病院に引き継ぐ

5. 施設設備管理業務

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	生活介護トリニティ生活支援員	氏名	菊地 愛	選任届出年月日	2019年8月1日
----	----------------	----	------	---------	-----------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	2018年4月1日	最終変更届出年月日	2019年8月1日
---------	-----------	-----------	-----------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019.7.2	2020.1.28	年月日	年月日
消防署への報告	有・無	整備点検記録の有無		有・無

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	

上記の改善内容

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	日の丸公園
施設からの距離	150M	施設からの距離	300M
予定地までの所要時間	5分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2019・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	2019・10・25	避難・消火・通報・救出・その他
2019・5・24	避難・消火・通報・救出・その他	2019・11・25	避難・消火・通報・救出・その他
2019・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	2019・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
2019・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2020・1・23	避難・消火・通報・救出・その他
2019・8・2	避難・消火・通報・救出・その他	2020・2・27	避難・消火・通報・救出・その他
2019・9・24	避難・消火・通報・救出・その他	2020・3・17	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・暖房器具の清掃
- ・防災絨毯・防災カーテンの設置
- ・災害時の備蓄品の整備
- ・災害時におけるマニュアルの作成

7. 職員配置状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常勤	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
生活支援員	非常勤	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
調理員	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33

(人)

8. 実習生・介護等体験の受入

- ・特になし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019.4.1	むぎのこ	法人研修	4名
2019.4.12	むぎのこ	法人研修	4名
2019.6.24	むぎのこ	朝研修 自閉症スペクトラム指数テスト	2名
2019.8.26	むぎのこ	リーダーシップ開発研修	1名
2019.10.31	むぎのこ	リーダーシップ開発研修	1名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019.12.3	食品衛生協会	ノロウイルス食中毒予防講習会	1名
2019.12.16、 18	札幌市自立支援協議会子ども 部会	支援力向上セミナー	1名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜	12回		管理者・生活支援員	1名	

ショートステイ会議	月1回			管理者・生活支援員	4名	
リスクマネジメント会議	月1回	12回		管理者	1名	
権利擁護・虐待防止委員会	月1回	12回		管理者	1名	
感染防止委員会	隔月			管理者	1名	
苦情処理委員会	年3回			管理者	1名	
働き方委員会	月1回	12回		管理者	1名	
防災委員会	月1回	12回		生活支援員	1名	
環境整備委員会	月1回	12回		生活支援員	1名	
給食委員会	月1回	12回		生活支援員	1名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

- ・パート職員も含め毎週CSPの学習会を行い、全員でCSPを用いて子ども達と肯定的に関わっている。
- ・毎月アンガーマネジメント講習を行い、各々の落ち着きプランを設定して逃げる練習、助けを求める練習、落ち着く練習を行い虐待防止に努めた。
- ・児童相談所の依頼で一時保護のケースも多く、また要保護家庭の緊急受入も速やかに行った。
状況に応じて随時連携会議を行い、各部署、関係機関との連携や支援内容の向上に努めた。必要に応じて援助計画も作成した。
- ・家族との関係から自宅で過ごすのが難しく連泊するケースも増えたが、支援により子どもが安心感を持って落ち着き、少しずつ家庭に戻れるように良い方向に向かっている。
- ・睡眠障害、パニック、家庭での暴力、ネグレクト、保護者の疲労等支援の必要な家庭が増えているので、今年度も引き続き速やかにケースに応じた支援を行っていく。

むぎのこ保育園

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	26	27	27	28	28	28	29	29	29	29	29	29	28.1
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32.9

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	500	592	621	654	508	571	639	636	616	612	535	550	7034

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・月間個別指導計画作成・評価を行う。
- ・グループカウンセリングなどを通して保護者へのアドバイス。

(2) 主な日中活動

- ・リズム・朝の会・散策散歩・公園遊び(遊具・水遊び・雪遊び・シート・そり滑り)
- ・園庭遊び(ターザンロープ・水遊び・プール遊び等)
- ・設定遊び(毛布ブランコ・布乗り遊び・音楽遊び・サーキット・王様等)
山登り・アート(描画・折り紙・季節の製作・クッキング等)

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式・お誕生会・カーペンター・避難訓練
5月	家庭訪問・遠足・お誕生会・クッキング・避難訓練
6月	バザー・お誕生会・避難訓練
7月	海水浴・クッキング・お誕生会・避難訓練
8月	一期終業式・二期始業式・お誕生会・避難訓練

9月	運動会お誕生会・クッキング・避難訓練
10月	遠足・お誕生会・カーペンター・避難訓練
11月	生活発表会・クッキング・お誕生会・避難訓練
12月	餅つき・クリスマス会・お誕生会・二期終業式・避難訓練
1月	三期始業式・お正月会・クッキング・お誕生会・避難訓練
2月	豆まき・お誕生会・避難訓練
3月	ひな祭り・卒園感謝会・クッキング・卒園式・お誕生会・修了式・避難訓練

3. 給食提供

- ・一日一食毎日提供（行事を除く）
- ・給食は施設内で作っている。
- ・アレルギー食は個別に対応している。
- ・離乳食は月齢に沿って対応している。誤嚥・誤食に気を付けて職員がつく
- ・食事の時間が楽しい雰囲気になるように配慮しながら環境作りをしている。

4. 医療体制

- ・年2回園医健診
- ・年1回歯科検診
- ・むぎのこ発達クリニックと連携して保育中の発熱・怪我などに直ぐに対応できるようにしている。
- ・利用時の投薬については与薬依頼票により看護師が対応している。
- ・感染症罹患後の保護者の登園届やと登園許可にについて医師の意見書などをもらい感染症予防に努める。

5. 施設設備管理業務

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	児童指導員	氏名	菊池愛	選任届出年月日	令和元年8月1日
----	-------	----	-----	---------	----------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	平成30年4月1日	最終変更届出年月日	令和2年4月2日
---------	-----------	-----------	----------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無	整備点検記録の有無		有 ・ 無

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	栄町小学校
施設からの距離	50メートル	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	1・10・25	避難・消火・通報・救出・その他
1・5・22	避難・消火・通報・救出・その他	1・11・22	避難・消火・通報・救出・その他
1・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	1・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
1・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2・1・24	避難・消火・通報・救出・その他
1・8・2	避難・消火・通報・救出・その他	2・2・21	避難・消火・通報・救出・その他

1・9・20	避難・消火・通報・救出・その他	2・3・27	避難・消火・通報・救出・その他
--------	-----------------	--------	-----------------

(2) その他の防災対策

- ・園内点検・防災器具の清掃
- ・非常口の確保の点検

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理者	常 勤												
事務	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
子育て支援員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育士	常 勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
保育士	非常勤	12	12	12	13	13	13	13	13	13	12	12	12
合計		14	14	14	15	15	15	15	15	15	14	14	14

8. 実習生・介護等体験の受入

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	麦の子会	法人研修	3
4/12	麦の子会	朝研修 発達支援	2
4/12	麦の子会	2歳児こどものゆたかなそだちと生活を創る	2
4/18	麦の子会	父母が教えてくれたこと	2
4/19	麦の子会	3歳児子どもの豊かな育ちと生活を創る	2
4/22	麦の子会	朝研修レジリアンス・	2
5/20	麦の子会	朝研修 クッキング	2
5/27	麦の子会	朝研修 コードとコレクスト	2
6/3	麦の子会	ゾウくんのさんぽ	2
6/10	麦の子会	朝研修 ト라우マについて	2
6/17	麦の子会	朝研修アンガーマネージメント	2
6/24	麦の子会	自閉症スペクトラムと指数テスト	2
7/22	麦の子会	朝研修 道東の自然	1
8/26	麦の子会	朝研修 乳幼児期の精神発達を学ぶ	2
9/2	麦の子会	朝研修 家族システム	2
9/9	麦の子会	朝研修 自閉症スペクトラムの子供の特徴	2
10/3	麦の子会	プレイバックシアター	1
10/28	麦の子会	朝研修 自閉症療育プログラム	1
11/8	麦の子会	子どもの発達と食事について	2
12/2	麦の子会	自閉症療育プログラム②	1
12/23	麦の子会	朝研修 家族支援について	2
1/18	麦の子会	朝研修 アンガーマネージメント	2
1/20	麦の子会	ミュージックセラピー	1
1/27	麦の子会	朝研修 家族支援	1
2/10	麦の子会	朝研修成人期の発達障害の臨床問題	2
2/17	麦の子会	朝研修 幼児期の食生活について	2
3/9	麦の子会	朝研修 てんかん発作	1

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
8/18～20	児童育成協会	企業主導型保育施設施設長研修	1
8/21～23	日本保育協会	令和元年保護者支援・子育て支援研修会	1
8/21	子ども未来局	認可外保育施設職員研修会 //	1

10/2	こども未来局	認可外保育施設職員研修会	3
11/30	児童育成協会	保育安全研修会	1
12/4	子ども未来局	認可外保育施設職員研修会	3
1/21	子ども未来局	認可外保育施設職員研修会	3

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
管理者会議		12回		管理者	1名	
給食委員会		12		保育士	1	
環境整備委員会		12		保育士	1	
防災委員会		12		保育士	1	

11. 苦情内容及び結果の公表

12. 評価と展望

- ・企業主導型保育事業として4年目を迎えて、引き続き35名の定員
- ・0歳児から5歳児で5クラスの形成となる。
- ・日誌・日報の管理整備や入園児健康診断、毎日の視診・毎月の健康診断を行い園児の細かい対応をしていく。
- ・更に入園児の5分ごとの睡眠チェックを行い、細かな対応をしている。
- ・定員の変更に伴い随時人員配置の確保をして引き続き安全に活動できるように配慮した。
- ・それぞれの年齢に応じた園庭遊び・公園遊び・制作活動など行い、CSP（効果的に褒める）を使い関わった。
- ・年長活動では他の事業所と一緒に集団活動を行っている。
- ・月一回のグループカウンセリングとランチ会などの開催をして行い保護者とのアセスメントを行っている。
- ・年間保育計画・月ごとの個別指導計画を作成して個別の支援を行うことが出来た。
- ・次年度は子どもたちが安心・安全に園生活を過ごせるようにさらにSCALEを大切にしていく。
- ・グループカウンセリングを通して保護者の困り感を引き出し関係機関につなげたり、安心して子どもたちと関われるようにしていく。
- ・職員やパートとのSV体制を確立して打ち合わせやケース会議などを通して目標を持って仕事に関わり、質の良い保育ができるようにチームで関わっていく。
- ・外部研修や内部研修に積極的に参加していく。
- ・CSPのスキル練習を毎日行う。
- ・内部監査チェックにより、書類を正確を作るようにしていく。

V 成人部門

事業所名 ジャンプレッツ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
江別市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
羽幌町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	810	800	891	945	741	852	899	866	876	804	785	880	10149

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・19年度の個別支援計画は18年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと19年度個別支援計画を説明し、同意を得る（9月も同様に後期個別支援計画を行なった。）

(2) 主な日中活動

- ・作業活動（畑作業・洗車作業・室内清掃、施設外清掃・除雪作業・ビーズ作業・ペンキ）そして3つのグループ（ペンキグループ・キッチンガーデニンググループ・ガーデニンググループ）に分かれ活動を行なった。
- ・スポーツ活動（プール・ソフトボール・ソフトバレー・クロスカントリー・卓球・スケート・サッカー、ボッチャ、風船バレー等）
- ・レクリエーション（ボウリング・カラオケ・ショッピング・フットケア・ハンドケア等）
- ・サークル活動（英会話、フラダンス、太極拳、映画・ヨガ、温泉サークル）
- ・行事（キャンプ・1泊旅行・フルーツ狩り・スポーツ大会・バザーなど）

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	英会話・フラダンス・入所式
5月	英会話・フラダンス・お花見
6月	英会話・フラダンス・いちご狩り
7月	英会話・フラダンス・海水浴
8月	英会話・フラダンス・キャンプ（中小屋小学校）
9月	英会話・フラダンス・キャンプ（中小屋小学校）
10月	英会話・フラダンス・バザー・スポーツ大会
11月	英会話・フラダンス・1泊旅行
12月	英会話・フラダンス・クリスマス会
1月	英会話・フラダンス・成人式
2月	英会話・フラダンス・豆まき
3月	英会話・フラダンス・ひな祭り

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、
--------	---

	障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため上記の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 医療体制

- ・嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎年1～2回の生活習慣予防検診の実施
- ・年2回の健康診断の実施（6月・10月）
- ・看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
- ・定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
- ・栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・防災設備（法定点検年2回）
- ・施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成21年4月1日
----	-----	----	-------	---------	-----------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2002年3月31日	最終変更届出年月日	2020年4月15日
---------	------------	-----------	------------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年7月31日	年月日	2020年2月17日	年月日
消防署への報告	有・無	整備点検記録の有無		有・無

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずどり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10M	施設からの距離	200M
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31・4・24	避難・消火・通報・救出・その他	1・10・23	避難・消火・通報・救出・その他
1・5・22	避難・消火・通報・救出・その他	1・11・27	避難・消火・通報・救出・その他
1・6・26	避難・消火・通報・救出・その他	1・12・25	避難・消火・通報・救出・その他
1・7・24	避難・消火・通報・救出・その他	2・1・22	避難・消火・通報・救出・その他
1・8・28	避難・消火・通報・救出・その他	2・2・26	避難・消火・通報・救出・その他
1・9・25	避難・消火・通報・救出・その他	2・3・25	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・自動通報装置の設置
- ・セコムとの連携・利用者の防災センター体験による防災意識高揚
- ・AEDの設置
- ・警備日誌の励行
- ・3日分の食料、水の備蓄、災害時拠点としての防災・災害対策用品の備蓄
- ・町内会防災訓練参加
- ・災害時指定避難場所への避難（伏古北小へ（年1回））

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常 勤	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
生活支援員	非常勤	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36

8. 実習生・介護等体験の受入

	受入学校名	実習期間	人数
実習生	札幌国際大学人文学部心理学科	8月8～9日、8月19～30日	1人
	せいとく介護こども福祉専門学校	11月18日～12月3日	1人

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1		法人研修	全職員
4/18		法人研修	全職員

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/15～18	株式会社 詩恩	行動援護従事者養成研修	1人
5/22.23	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長セミナー	1人
5/23.24, 6/11.12	社会福祉法人 はるにれの里	行動援護従事者養成研修	1人
6/21	札幌市社会福祉協議会	新任支援員研修会	2人
7/4.5	北海道知的障がい福祉協会	北海道知的障がい関係支援員研修	2人
7/13,14	堀健一	CSP 管理者研修事前研修	1人
7/22,23	北海道知的障がい福祉協会	全国知的障がい関係施設長等会議	1人
7/13,14	北海道ファミリーホーム協議会	ファミリーホーム研究大会	1人
8/1	北海道知的障がい福祉協会	権利擁護セミナー	2人
8/30	札幌市社会福祉協議会	ニューパワー全体セミナー	4人
9/28,29	堀健一	CSP 事前検定	1人
9/27	北海道知的障がい福祉協会	災害対策研修会	1人
10/7,8,9	堀健一	CSP 管理者検定	1人
10/8,9	北海道知的障がい福祉協会	全道知的障がい関係職員研究大会	2人
10/12・13	社会福祉法人侑愛会	5法人ジョイントセミナー	1人
10/15,16	北海道 CM ネット	相談支援従事者研修	1人
11/17,18	全国児童発達支援協議会	CDS・japan	1人
12/1～3	障がい者支援施設 三気の里	熊本三気の里かくたつ研修	1人
12/3	札幌市食品衛生協会	ノロウイルス食中毒予防講習会	1人
12/10,11	日本知的障がい福祉協会	日中活動支援部会全国大会北海道大会	2人
12/19	特定非営利活動法人きなはれ	児童発達支援管理責任者更新研修	1人
1/20～23	株式会社 詩恩	行動援護従事者養成研修	2人
2/7,8 2/14,15	社会福祉法人 はるにれの里	行動援護従事者養成研修	1人
2/17,18	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長研修会	1人

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第 1.3 水曜日	24 回		管理者. サビ管・生活支援員・看護師	17 名	
各種委員会	毎月第 4 水曜日	12 回		委員会担当職員	17 名	
職員会議	毎月第 4 水曜日	12 回		管理者. サビ管. 生活支援員		
各部会議	毎月第 2 水曜日	12 回		管理者・サビ管・生活支援員		
マネージャー会議	随時	29 回		マネージャー	2 名	
リーダー会議	月 1 回	12 回		マネージャー・リーダー	3 名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

利用者支援では、コモンセンスペアレンティングを中心に、全職員が適切な場面で各教育法を実践できるよう毎日おこない、少しずつ共通言語での支援ができるようになり、専門的な関りで利用者との関係を築いた。朝の打ち合わせでは、CSP の浸透を図り、各セッションの 5 分講座を開催し、どこが大切なのかや、継続することでの実践への繁栄など、大きな効果がみられた。

またパート職員の勉強会（第 2 水曜）を行なうことを継続することで、コモンセンスペアレンツも職員間パートでの理解が深まった。

2019 度も家族会からの要望で保護者への CSP も開催その学びが、保護者が自宅での利用者さんとの関り方についての助けとなった。ひきつづき CSP を開催し、実際場面を想定した関りやアンガーマネジメントのサポートを考慮していく。

記録に関しては、より数値がわかりやすく、具体的に見せて話すの記述できるように改善、週単位、月単位でのアセス面が出きるようにし、意味のある個別支援ができるように整えた。

対応が難しい利用者の方に対しての支援は、わかりやすい構造化や、片倉先生から学んだ体操、どんなに障害が重くても、作業（内職のようなもの）を 5 分でも短時間でも必ず行うシステムを進め、利用者さんの先を見据えた関りをチームで行うよう会議を行なった。職員の誰もが、同じ支援ができるよう前日の支援の FB を行い、当日は何を予防したり、どの部分を肯定的に関わっていくかなど、ピンポイントの具体的な支援に繋げ実際に良い支援をチームで行うことができた。

地域とのつながりでは、丘珠南町内会の催しや行事に利用者も職員も参加。近隣住民宅の除雪要請で利用者さんと除雪を行う。伏古北小との交流会に例年通り参加し交流を深める。とともに、小さいころから障害あるなしに関わらず、一人の人としての人権を大切にすることも伝えらえた。

非常災害時に備え災害時の啓蒙に努めた。これからもより地域に開かれ安心、安全に配慮されたジャンプレッツを目指していく。

職員一人一人が、自分の役割と責任を全うし、利用される方々に対して、CSP を土台に据えながら、利用者一人一人の今必要な支援、どうしたらよくなるかの工夫を怠らず、そして、将来的にどのようになって欲しいか目標を定め短期・長期を見据えた包括的な支援を今後も行なっていく。

ジャンプレッツ（就労移行）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	8	7	7	8	9	11	11	11	11	12	10
計	9	9	8	7	7	8	9	11	11	11	11	12	9.4
前年度	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	111	116	119	103	93	103	137	167	167	176	165	170	1627
前年度	129	156	156	188	172	143	159	140	138	149	125	141	1796

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2019年度の個別支援計画は中間評価で利用者本人と面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者や保護者に作成した個別支援計画を説明し、同意を得る。(概ね3ヶ月ごとに同様に個別支援計画の見直しを行った。)

(2) 主な日中活動

・調理室での作業：食器の準備、調理業務(食材の切り作業、味付け、炒め作業等)、食事の配達業務、食器洗浄、調理室清掃作業等、ジャンプレッツ内清掃
 ・麦の子発達クリニックの清掃

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入所式
5月	お花見
6月	いちご狩り
7月	海水浴
8月	キャンプ(中小屋小学校)
9月	キャンプ(中小屋小学校)
10月	バザー・スポーツ大会
11月	1泊旅行
12月	クリスマス会
1月	成人式
2月	豆まき
3月	ひな祭り

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 健康管理業務

(1) 医療体制

・嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎月1~2回の生活習慣予防検診の実施

(2) 健康管理

・年2回の健康診断の実施(6月・10月)
 ・看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
 ・定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
 ・栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・防災設備（法定点検年2回）
- ・施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成 21 年 4 月 1 日
----	-----	----	-------	---------	-----------------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2002 年 3 月 31 日	最終変更届出年月日	2020 年 4 月 15 日
---------	-----------------	-----------	-----------------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019 年 7 月 31 日	年 月 日	2020 年 2 月 17 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無		整備点検記録の有無	
	有		有	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずどり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10M	施設からの距離	200M
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31・4・24	避難・消火・通報・救出・その他	1・10・23	避難・消火・通報・救出・その他
1・5・22	避難・消火・通報・救出・その他	1・11・27	避難・消火・通報・救出・その他
1・6・26	避難・消火・通報・救出・その他	1・12・25	避難・消火・通報・救出・その他
1・7・24	避難・消火・通報・救出・その他	2・1・22	避難・消火・通報・救出・その他
1・8・28	避難・消火・通報・救出・その他	2・2・26	避難・消火・通報・救出・その他
1・9・25	避難・消火・通報・救出・その他	2・3・25	避難・消火・通報・救出・その他

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
職業指導員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
就労支援員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/2	社会福祉法人麦の子会	法人研修	4名
4/14	社会福祉法人麦の子会	法人研修	1名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
11/22	北海道社会福祉協議会	栄養士専門研修	1
3/6	札幌市自立支援協議会	就労系福祉サービス事業所意見交換会	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第1・3水曜	24回		管理者・サビ管・支援員	3名	
ケース会議	毎月第4水曜	12回		管理者・サビ管・支援員	3名	
各種委員会	各委員会規定日	12回		委員会担当職員	3名	
職員会議	毎月第4水曜日	12回		管理者・サビ管・支援員	3名	
各部会議	毎月第2水曜日	11回		管理者・サビ管・支援員	3名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	

12. 評価と展望

2019年度は、一般就労に結び付いた利用者さんはいなかった。昨年度に比べ、4月から利用者が減少したが、対策を立てるのが遅れしばらく定員割れの利用率になってしまった。これは、全体の経営を考慮せずに進めてしまった部分であった。改善策として、年度別の利用井予定者を策定し、定員を満たない場合は、相談室と連携し、就労希望者を紹介いただき、常に定員以上の利用者が通所できるようなシステムを策定。11月より進め、利用率も改善された。難しい支援として、欠席がちな利用者には毎日連絡し心身の体調を把握し通所を促すなど、より利用者さんに合わせた作業を提供するなどの対策を講じたが、もっと個人的にスケジュールを立て、目標をわかりやすく具体的にし、達成できるシステムを構築しなければと考える。2020年度の課題である。

生活介護同様、職員がCSPを身につけ基礎的な部分を学び効果的に褒め、予防教育を行うことで支援に活かしている。就労に向けて、社会スキルを学び、新たな職場でも社会スキルを般化できるよう支援していく。利用者さんの生活環境は様々であるため、作業のスキルアップだけではなく、子育てについての悩み、日々の生活の不安などの相談や、生活リズムが安定せず通所する事が難しいなどの相談など、生活支援、家族支援を必要とされる方が多い。精神的な問題や不安を抱える方が多い。自宅から出る事が出来ない利用者の方もいる。毎日の電話連絡等、また個別に話す機会を設け、心理士によるカウンセリングを定期的に受けるなど、コミュニケーションする時間をできるだけ増やし、職員が利用者さんの思いを丁寧に聞く事で悩みや不安の軽減を図れるよう配慮する必要がある。

仕事のスキル(ハード面)も大切だが、生活に必要な社会スキルなど(ソフト面)の支援も大変重要になってきている。個別に面談を行なっていく事で就労支援だけではなく、生活面の不安や心配事などを相談し、少しでも解消することで、日々の通所の安定を図り充実した生活ができるよう今後も支援を続けていく。

ハーベストガーデン

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	515	516	566	575	490	506	560	538	534	513	513	453	6279

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・2019年度の個別支援計画は2018年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2019年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

- ・スポーツ（歩くスキー・スケート・ソフトボール・マラソン他）/勉強
散歩/ショッピング/町内清掃/ガーデニング/畑作業/フラダンス/アイロンビーズ
洗車作業/良い結果買い物

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入所式・歓迎会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
5月	花見・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント・
6月	いちご狩り・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
7月	海水浴・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
8月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
9月	フラダンス・ボイストレーニング・日帰りキャンプ
10月	バザー・スポーツ大会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
11月	1泊旅行・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
12月	忘年会・1泊旅行・クリスマス会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
1月	新年会・成人式・歩くスキー・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
2月	豆まき・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
3月	雛祭り・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント

3. 給食提供

- ・1日1食 毎日提供 食事時間 12:30~13:30
- ・食事提供にあたって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うため栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。

4. 医療体制

- ・むぎのこ発達クリニックと連携し、発熱、怪我などの場合、瞬時に対応する事ができた。

5. 施設設備管理業務

- ・防災設備（法廷点検2回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	管理者	氏名	古家 健司	選任届出年月日	平成24年7月12日
----	-----	----	-------	---------	------------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	平成29年4月17日	最終変更届出年月日	平成30年4月24日
---------	------------	-----------	------------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	1年7月3日	2年1月28日	年月日	年月日
消防署への報告	○有・無		整備点検記録の有無	
			○有・無	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	ひのまる公園
施設からの距離	150m	施設からの距離	300m
予定地までの所要時間	5分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2019・4・24	避難・消火・通報・救出・その他	2019・10・23	避難・消火・通報・救出・その他
2019・5・29	避難・消火・通報・救出・その他	2019・11・27	避難・消火・通報・救出・その他
2019・6・26	避難・消火・通報・救出・その他	2019・12・25	避難・消火・通報・救出・その他
2019・7・24	避難・消火・通報・救出・その他	2020・1・29	避難・消火・通報・救出・その他
2019・8・28	避難・消火・通報・救出・その他	2020・2・26	避難・消火・通報・救出・その他
2019・9・25	避難・消火・通報・救出・その他	2020・3・25	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者													
サービス責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9
生活支援員	常勤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5
看護師	常勤	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
看護師	非常勤	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	7	7
合計		20	20	20	20	20	20	200	20	22	22	24	24

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	北海道札幌あいの里高等支援学校	6/10～6/14	1人
	北海道札幌あいの里高等支援学校	9/24～10/4	1人
	北海道札幌あいの里高等支援学校	10/28～11/1	1人
	光塩学園調理製菓専門学校	11/11～11/22	1人
	光塩学園調理製菓専門学校	2/19～2/28	1人

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1		法人研修	全職員
4/18		法人研修	全職員

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/5/22-23	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長セミナー	1人
2019/6/8	自閉症援助技術研究会	応用行動分析からの自閉症支援	1人
2019/6/22	北海道自閉症協会札幌分会	自閉症者への対人関係の形成	1人
2019/7/4-5	北海道知的障がい福祉協会	北海道知的障がい関係支援員研修	2人
2019/7/13-14	堀健一	管理者研修受講候補者の事前検定	1人
2019/7/22-23	日本知的障がい福祉協会	全国知的障がい関係施設長等会議	1人
2019/8/1	北海道知的障がい福祉協会	権利擁護セミナー	1人

2019/9/15-16	日本ペアレントトレーニング研究会	日本ペアレントトレーニング研究会	1人
2019/9/23	札幌市社会福祉協議会	人権セミナー	3人
2019/10/7	令和元年度厚労省補助事業	東大ゼミ「障がい者のリアルに迫る」サポート	1人
2019/10/8-9	北海道知的障がい福祉協会	全道知的障がい関係職員研究大会	1人
2019/10/12-13	社会福祉法人侏愛会	5法人ジョイントセミナー	1人
2019/10/19-20	㈱スワン	スワン代表者会議	1人
2019/11/17-18	全国児童発達支援協議会	CASEJapan 総会・弘済学園見学	1人
2019/12/10-11	日本知的障がい福祉協会 北海道知的障がい福祉協会	日中活動支援部会	2人
2020/1/30	札幌市食品衛生協会	食品衛生責任者実務講習会	2人
2020/2/17-18	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長研修会	1人
2020/2/17-20	㈱詩恩	行動援護従業者養成研修	1人
2020/2/21	札幌市知的障がい福祉協会	知的障がい福祉協会職員研修	1人

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第 1. 3 水曜日	24 回		管理者・サビ管・生活支援員	6 名	
各種委員会	毎月第 4 水曜日	12 回		委員会担当職員	6 名	
職員会議	毎月第 4 水曜日	12 回		管理者・サビ管・生活支援員		
各部会議	毎月第 2 水曜日	12 回		管理者・サビ管・生活支援員		

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

職員は CSP を学び、教育法を用いて利用者さんとの関係を築いていった。個別にどのような社会スキルが必要か支援計画を立てて毎日の練習を行った。活動も社会スキルを学ぶことで、施設外の活動に参加する機会が増えて、地域での当たり前前の生活を実現していった。しかし、地域で生活すると周りの方に迷惑をかけることもあった。失敗しても励まし、どのようなスキルが必要だったか考えて、問題を一つ一つ解決して次に繋げていく事で、生活の質があがり、当たり前前の生活に繋げていくことが出来てきた。職員は常に先回りして、どのような予防が必要か考えて実行していく事を毎日練習し意識していく事で支援につながる事が出来てきている。利用者さんのリーダーを決めて、協力して活動を行うことも増えてきている。周りの人への気づかいができる集団になってきていると感じる。グループホームとの連携で、どのような支援がお互いに行われているのかを確認することができ、生活と活動の支援を統一させることも出来るようになってきている。

店舗は働ける利用者さんが増え、自分たちで仕事を探すことが出来てきている。お客様にも憩いの場として、定着してきたと感じられる。今後も店舗の会議を週 1 回開き、より良い接客や製造のレベルを上げていく。

全体としてグループ SV を行うことで職員間の流れがよくなっていると感じる。

2020 年度も、社会で豊かな生活をおくることを真剣に考えて取り組んでいく。新しい職員も入社されたので、一つ一つの活動も何のために取り組んでいるのか考えて、意味のあるものにしていく。活動を通して社会スキルを身につけていけるよう職員が行動していく。そして利用者さんに働くことを意識できる年度にしていきたい。

店舗ではランチや子ども食堂などを継続して行い、地域の困っている方々でも入りやすい店舗づくりを目指していく。地域で当たり前前に生活していく大前提を目標に、全ての作業、活動に取り組んでいく。

トリニティ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18.8
北区	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.8
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	352	388	443	470	391	440	474	446	435	411	405	435	5090

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2019年度の個別支援計画は利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと201年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月も同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

・スポーツ(歩くスキー・スケート・ソフトボール・マラソン他)/勉強/室内トレーニング/ペンキ塗り/健康体操/散歩/ショッピング/町内清掃/ガーデニング/畑作業/フラダンス 他

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	フラダンス・英会話・入所式
5月	フラダンス・英会話・花見
6月	フラダンス・英会話・いちご狩り
7月	フラダンス・英会話・海水浴
8月	フラダンス・英会話・キャンプ
9月	フラダンス・英会話・バザー
10月	フラダンス・英会話・スポーツ大会
11月	フラダンス・英会話・一泊旅行
12月	フラダンス・英会話・クリスマス会
1月	フラダンス・英会話・成人式・歩くスキー
2月	フラダンス・英会話・豆まき
3月	フラダンス・英会話・ひなまつり

3. 給食提供

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間11:30~13:30 食事提供に当たって、利用者に心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障がいの特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため上記の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 医療体制

：

5. 施設設備管理業務

・防災設備(法定点検年2回)

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	管理者	氏名	菊池 愛	選任届出年月日	令和元年8月1日
----	-----	----	------	---------	----------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	平成30年4月1日	最終変更届出年月日	令和2年4月2日
---------	-----------	-----------	----------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	○ ・ 無		整備点検記録の有無	
			○ ・ 無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ ○
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	日の丸公園
施設からの距離	150m	施設からの距離	300m
予定地までの所要時間	5分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31・4・19	避難・消火・通報・救出・その他	1・10・25	避難・消火・通報・救出・その他
1・5・24	避難・消火・通報・救出・その他	1・11・22	避難・消火・通報・救出・その他
1・6・21	避難・消火・通報・救出・その他	1・12・20	避難・消火・通報・救出・その他
1・7・26	避難・消火・通報・救出・その他	2・1・24	避難・消火・通報・救出・その他
1・8・2	避難・消火・通報・救出・その他	2・2・21	避難・消火・通報・救出・その他
1・9・20	避難・消火・通報・救出・その他	2・3・13	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・利用者の防災センター体験による防災意識高揚
- ・警備日誌の励行
- ・災害時指定避難場所への避難訓練

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理者	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師	非常勤	1	1	1	1	1							
生活支援員	常 勤	7	7	7	7	5	6	5	5	5	5	5	5
生活支援員	非常勤					1	1	2	2	2	2	2	2
栄養士	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11

8. 実習生・介護等体験の受入

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	社会福祉法人麦の子会	法人研修	8

4/12	社会福祉法人麦の子会	朝研修	2
4/14.16	社会福祉法人麦の子会	CSP 養成講座	1
4/18	社会福祉法人麦の子会	法人研修②	8
4/22	社会福祉法人麦の子会	朝研修「レジリエンス」	1
4/23.24	社会福祉法人麦の子会	コンサルテーション	2
5/27	社会福祉法人麦の子会	朝研修「コードとコンテクト」	1
6/10	社会福祉法人麦の子会	朝研修「トラウマ」	1
6/12	社会福祉法人麦の子会	コンサルテーション	2
6/17	社会福祉法人麦の子会	朝研修「アンガーマネジメント」	1
6/24	社会福祉法人麦の子会	朝研修「自閉症スペクトラム指数」	1
7/8	社会福祉法人麦の子会	朝研修「自閉症スペクトラム障害の早期発見のポイント」	1
7/22	社会福祉法人麦の子会	朝研修「アウトドア」	1
8/21	社会福祉法人麦の子会	発達段階の研修	1
8/26	社会福祉法人麦の子会	朝研修「精神発達」	1
8/26	社会福祉法人麦の子会	リーダーシップ開発研修	2
8/29	社会福祉法人麦の子会	コンサルテーション	2
8/31	社会福祉法人麦の子会	強度行動障害研修	1
9/2	社会福祉法人麦の子会	朝研修「家族システム」	1
9/9	社会福祉法人麦の子会	朝研修	1
10/4	社会福祉法人麦の子会	若手職員研修	1
10/7	社会福祉法人麦の子会	朝研修「ソーシャルワーク」	1
10/23	社会福祉法人麦の子会	発達の障害の療育	1
10/24	社会福祉法人麦の子会	コンサルテーション	2
10/31	社会福祉法人麦の子会	朝研修	1
11/8	社会福祉法人麦の子会	二通先生研修会	5
11/12	社会福祉法人麦の子会	リーダーシップ開発研修	2
12/2	社会福祉法人麦の子会	朝研修「語用論」	1
12/11	社会福祉法人麦の子会	発達段階の研修	1
12/23	社会福祉法人麦の子会	朝研修「家族支援①」	1
1/7	社会福祉法人麦の子会	コンサルテーション	2
2/8	社会福祉法人麦の子会	小野先生研修会	3

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/28～5/1	IBPF	ボーイズタウン里親支援管理者研修	1
7/2.3	札幌市防災教会	甲種防火管理新規講習	1
7/13.14	堀健一	CSP 事前研修	1
8/31	札幌市社会福祉協議会	ニューパワーセミナー	1
9/28.29	IBPF	CSP 管理者事前検定	1
10/5.6	IBPF	ボーイズタウン SV 研修	1
10/7.8.9	IBPF	CSP 管理者研修	1
11/17.18	全国児童発達支援協議会	CASEJapan 総会・弘済学園見学	1
12/10.11	日本知的障がい福祉協会 北海道知的障がい福祉協会	日中活動支援部会	1
12/21.22	一般社団法人日本子ども虐待防止 学会	虐待防止学会	1
2/7.8.9	アメニティフォーラム実行委員会	アメニティフォーラム	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第1・3水曜	24回		管理者・サビ管・支援員	9名	
ケース会議	毎月第4水曜	12回		管理者・サビ管・支援員	9名	
各種委員会	各委員会規定日	12回		委員会担当会議	9名	
職員会議	毎月第4水曜日	12回		管理者・サビ管・支援員	9名	
各部会議	毎月第2水曜日	11回		管理者・サビ管・支援員	9名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	

12. 評価と展望

- ・職員はCSPを支援の基本とし、効果的な褒め方で関係性を築く事を意識して取り組んでいった。関係性を築くことで、問題行動が起きても適応行動を練習し、褒めて終わるサイクルを職員間で徹底していくことで、問題行動を減らしていくことが出来た。社会スキルの練習を日々行う事で、利用者さんが適切に許可を得る事が出来るようになり、落ち着いている時間が増えたことにより、コミュニケーションも増えてきた。言葉で思いを
- ・昼食時の体制や一日の流れを明確にし、構造化することによって利用者さんの動きがわかりやすくなり、落ち着いた生活を送る事が出来た1年だった。さらに時間を有効活用し、体操など身体を動かす事によって適応行動を褒める機会を増やすことが出来た。
- ・次年度では活動の内容を充実させることが出来ず、毎週同じような活動が多かったため、活動内容の見直しをし、活動内で利用者さん達成感や充実感を感じて成長出来るようにしたい。

ホワイトハウス（グループホーム）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	41	42	43	44	45	46	47	47	47	47	47	48	45
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
豊平区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
札幌市外	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	54	55	56	57	58	59	60	60	60	60	60	61	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	1490	1474	1593	1646	1477	1561	1711	1633	1634	1575	1573	1715	19082

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2019年度の個別支援計画はジャンプレッツ・ハーベストガーデン・トリニティと連携をとり、2018年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2019年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月以降に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	誕生会、ショッピング
5月	誕生会、ショッピング、キャンプ
6月	誕生会、ショッピング
7月	誕生会、ショッピング

8月	誕生会、ショッピング、キャンプ
9月	誕生会、ショッピング、野球観戦
10月	誕生会、ショッピング
11月	誕生会、ショッピング
12月	誕生会、ショッピング
1月	誕生会、ショッピング
2月	誕生会、ショッピング
3月	誕生会、ショッピング

3. 給食提供

- ・1日2食（朝食、夕食）
- ・食事時間 朝食：7：00～9：00
夕食：17：00～19：00
- ・食事の提供に当たっては、基本的に支援者が調理・準備をする
- ・利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行ない、世話人が献立を考える
- ・ハーベストガーデンより夕食の惣菜(月、火、木、金)を購入している時は、その惣菜を確認してバランスの良い副食を考える
- ・調理の時は刃物、お湯、油等に世話人が十分注意し、これを行なう

4. 医療体制

- ・嘱託医（むぎのご発達クリニック病院長）、ジャンプレッツ、ハーベストガーデン、トリニティとの連携により利用者の体調の変化による診察の実施
- ・看護師が週1回各ホームを訪問して利用者のバイタルチェックを実施

5. 施設設備管理業務

- ・防災設備（法定点検年2回）

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2018年4月2日	最終変更届出年月日	
---------	-----------	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	01年7月25日	02年1月24日	01年7月25日	02年1月24日
消防署への報告	○有・無		整備点検記録の有無	
			○有・無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	○有・無
立入検査年月日	2019年7月23日 他
改善指示事項の有無	有・○無
改善指示事項の内容	特になし
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

「ホワイトハウス」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	栄小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「アーク」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	伏古児童会館	予定地	伏古小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	300m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「マーガレット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	300m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「イーラット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	200m	施設からの距離	350m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「クローバー」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄南小学校	予定地	栄南中学校
施設からの距離	400m	施設からの距離	900m
予定地までの所要時間	徒歩15分	予定地までの所要時間	徒歩25分

「ダニエル」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	300m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「オリーブ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「アン」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	150m	施設からの距離	150m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩5分

「サンタローザ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「カリブ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄小学校	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	300m	施設からの距離	700m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「フラナガン」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	150m	施設からの距離	150m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩5分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
H30・4・24	避難 消火・通報・救出・その他	R1・10・30	避難 消火・通報・救出・その他
R1・5・29	避難 消火・通報・救出・その他	R1・11・27	避難 消火・通報・救出・その他
R1・6・26	避難 消火・通報・救出・その他	R1・12・25	避難 消火・通報・救出・その他
R1・7・31	避難 消火・通報・救出・その他	R2・1・29	避難 消火・通報・救出・その他
R1・8・28	避難 消火・通報・救出・その他	R2・2・26	避難 消火・通報・救出・その他
R1・9・25	避難 消火・通報・救出・その他	R3・3・25	避難 消火・通報・救出・その他

※ホームによって訓練の実施日が異なる事があります

(2) その他の防災対策

- ・住居内外点検、非常持ち出し袋常備、保存水常備

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス担当者	常 勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
世話人	常 勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
世話人	非常勤	18	17	17	18	18	18	18	18	19	19	19	19
生活支援員	常 勤	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		40	39	39	40	40	40	40	40	41	41	41	41

8. 実習生・介護等体験の受入

・なし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/4/1		法人研修	15名
2019/4/23		堀先生コンサルテーション	3名
2019/6/12		堀先生コンサルテーション	3名
2019/8/5		堀先生コンサルテーション	3名
2019/10/15		アンガーマネジメント	13名
2020/1/17		発達段階の研修	12名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/9/12	北海道知的障がい福祉協会	全道グループホーム等スタッフ研修会	2名
2020/2/12	むぎのこ	西永先生研修会	14名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52回		管理者・サビ管 世話人・生活支援員	14名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	—

12. 評価と展望

- ・2019年度は6月にサテライトが1カ所、7月にホームが1カ所、2020年2月にもサテライトが1カ所開所しており、11箇所ホームと5箇所のサテライトで定員が62名まで増えている。
- ・近年はホームから一人暮らしの準備としてサテライトに転居、そのサテライトを終了して一人暮らしを始めるなど、利用者の状況やニーズに合わせて支援が多様化している。
- ・今年度も新人職員の育成強化、及び通所施設との連携強化の為に4名が生活介護事業所とグループホームを兼務しており、利用者の日中活動の様子を把握してグループホームでの生活支援に繋げている。
- ・「アンガーマネジメント」の一環として、各ホームに職員それぞれの「落ち着きプラン」を掲示することにより職員全員で適切な行動への意識の向上を図った。
- ・キャンプやスポーツ観戦など戶外活動、ヘルパーを利用して買い物やカラオケなど利用者が楽しく豊かな生活を送れるように支援に努めていた。
- ・引き続き、通所とグループホームは成人部門としてお互いに協力して情報の共有をしていき、利用者の支援にあたっていく。

ショートステイホームカリブ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	12	13	14	11
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	18	19	20	17

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	20	18	20	22	16	19	21	22	20	19	18	21	236

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・ジャンプレッツ・ハーベストガーデン・トリニティと連携を取り、短期入所計画を策定している

(2) 主な日中活動

- ・起床・洗面・着替え・朝食・送迎
- ・夕食・入浴・くつろぎ・睡眠

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

- ・特になし

3. 給食提供

給食提供形態	<p>○1日3食・毎日提供(利用者がいる場合に限る)</p> <p>【食事時間】朝食:5:30~7:30 昼食:12:00~12:30 夕食:18:00~18:30</p> <p>○食事の提供に当たっては、利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行うとともに、利用者の年齢及び障害の特性に応じた、適切な栄養量及び内容の食事の提供を行うため、非常勤の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。</p>
給食費	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食 300円 ・昼食 400円 ・夕食 500円

4. 医療体制

診療科目	病院名
精神科	むぎのご発達クリニック
内科	むぎのご発達クリニック
緊急時	嘱託医田村Drに指示を仰ぎ病院に引き継ぐ

5. 施設設備管理業務

施設設備の修理・工事	特になし
施設設備の保守点検委託業務	防災設備(法定点検年2回)
施設設備の管理業務	④ 外回り清掃(随時) ⑤ 除雪(随時)

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2018年4月2日	最終変更届出年月日	
---------	-----------	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	01年7月25日	02年1月24日	01年7月25日	02年1月24日
消防署への報告	○有・無		整備点検記録の有無	
			○有・無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	○有・無
立入検査年月日	2019年7月23日 他
改善指示事項の有無	有・○無
改善指示事項の内容	特になし
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄小学校	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	300m	施設からの距離	700m
予定地までの所要時間	徒歩 10分	予定地までの所要時間	徒歩 15分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
H30・4・24	○避難 消火・通報・救出・その他	R1・10・30	○避難 消火・通報・救出・その他
R1・5・29	○避難 消火・通報・救出・その他	R1・11・27	○避難 消火・通報・救出・その他
R1・6・26	○避難 消火・通報・救出・その他	R1・12・25	○避難 消火・通報・救出・その他
R1・7・31	○避難 消火・通報・救出・その他	R2・1・29	○避難 消火・通報・救出・その他
R1・8・28	○避難 消火・通報・救出・その他	R2・2・26	○避難 消火・通報・救出・その他
R1・9・25	○避難 消火・通報・救出・その他	R3・3・25	○避難 消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・住居内外点検

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
世話人	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
世話人	非常勤	18	17	17	18	18	18	18	18	19	19	19	19
生活支援員	常勤	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		40	39	39	40	40	40	40	40	41	41	41	41

8. 実習生・介護等体験の受入

- ・特になし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/4/1		法人研修	15名
2019/4/23		堀先生コンサルテーション	3名
2019/6/12		堀先生コンサルテーション	3名
2019/8/5		堀先生コンサルテーション	3名
2019/10/15		アンガーマネジメント	13名
2020/1/17		発達段階の研修	12名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/9/12	北海道知的障がい福祉協会	全道グループホーム等スタッフ研修会	2名
2020/2/12	むぎのこ	西永先生研修会	14名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52回		管理者・サビ管 世話人・生活支援員	14名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	なし

12. 評価と展望

- ・CSP勉強会を行なう事で支援員のスキルアップを図り、日々効果的な褒め方や予防的教育を用いて利用者の支援に努めてきた。
- ・利用者の自己決定や自己選択を尊重する事を第一に支援を行なっていく。
- ・関わりが難しい子どもに関してはその都度、関係通所と連携をとりチームで支援する事が出来た。
- ・「アンガーマネジメント」の一環として、各ホームに職員それぞれの「落ち着きプラン」を掲示することにより職員全員で適切な行動への意識の向上を図った。

VI 社会的養護部門

ガブリエルホーム（ファミリーホーム）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5.8
一時保護	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	1	0.5
計	5	5	6	6	6	7	6	6	8	7	7	7	6.3
前年度	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	150	155	180	186	186	186	186	180	197	187	203	217	2213

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・児童自立支援計画が児童相談所より届き確認した。
- ・発達支援プランを作成した。

(2) 主な日中活動

- ・整容・朝食・出発準備・おやつ・夕食・入浴

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	キャンプ、小学校運動会、お誕生会、避難訓練
6月	バザー、避難訓練
7月	FH北海道大会（ニセコヒルトンホテル）、避難訓練
8月	キャンプ、避難訓練
9月	運動会、避難訓練
10月	マラソン大会、バザー、お誕生会、避難訓練、カーペンターズ
11月	生活発表会、避難訓練
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会
1月	お正月会、お誕生会、避難訓練、歩くスキー
2月	豆まき、避難訓練
3月	ひなまつり、お誕生会、卒園式、避難訓練

3. 給食提供

給食提供形態	○平日 朝・夕食 ○休日 朝・昼・夕食 食事の提供に当たっては、利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し適切な内容の食事を提供した。
給食費	0円

4. 医療体制

- ・嘱託医 麦の子発達クリニック院長
- ・下記近隣医療機関との連携

診療科目	病院名
内科	むぎのこ発達クリニック・石川内科
精神科	北大精神科・黒川メンタルクリニック
耳鼻科	コドモックル・あべ耳鼻科
整形外科	奥泉整形外科病院・あんざい整形外科
歯科	みさき歯科医院・北大歯科・しろくま歯科
眼科	おぎた眼科
皮膚科	新道東皮膚科、栄町皮膚科
緊急時	救急車対応

5. 施設設備管理業務

- ・火災報知器、消火器の点検（法定点検年2回）
- ・室内清掃（毎日）
- ・室外清掃・草花の手入れ（都度）

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名		氏名	届出義務なし	選任届出年月日	
----	--	----	--------	---------	--

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	届出義務なし	最終変更届出年月日	
---------	--------	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年5月27日	2019年11月26日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有・無	整備点検記録の有無		有・無

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる公園	予定地	栄小学校
施設からの距離	200m	施設からの距離	400m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	5分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31.4.24	避難・消火・通報・救出・その他	1.10.23	避難・消火・通報・救出・その他
1.5.22	避難・消火・通報・救出・その他	1.11.20	避難・消火・通報・救出・その他
1.6.26	避難・消火・通報・救出・その他	1.12.26	避難・消火・通報・救出・その他
1.7.24	避難・消火・通報・救出・その他	2.1.22	避難・消火・通報・救出・その他
1.8.21	避難・消火・通報・救出・その他	2.2.19	避難・消火・通報・救出・その他
1.9.25	避難・消火・通報・救出・その他	2.3.25	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・火災通報装置・誘導灯・防災カーテン・防災カーペット

7. 職員配置状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1										
主養育者	常勤	1	1										
管理者兼主養育者	常勤			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(人)

8. 実習生・介護等体験の受入

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	社会福祉法人麦の子会	法人研修	3名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/16	北海道ファミリーホーム協議会	H31 年度総会・役員会	1名
7/13～14	北海道ファミリーホーム協議会	R1年度北海道研究大会(ニセコ)	4名
8/7～8	日本ファミリーホーム協議会	第14回ファミリーホーム全国研究大会(岡山)	1名
10/23	札幌市児童相談所・札幌市里親会	札幌市里親促進フォーラム	1名
12/14～15	札幌市里親会	R1 年札幌市里親会宿泊研修	4名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
ファミリーホーム会議	毎週1回	16回		管理者・主たる養育者・補助者	5名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	

12. 評価と展望

前年度は、措置解除などがあり年度末で4名の子どもだったが、4月に入りすぐ中学生の女兒が入り5名でスタートした。小学生2名進級、中学生2名進級、トリニティ通所男児1名。

7月には、ファミリーホーム北海道研究大会がニセコで開催され、子どもたちも参加し、アスレチックなどの活動を楽しんだ。また、道内各地から集まったファミリーホームの子どもたちとも交流出来た。

今年度は、特に赤ちゃんの一時保護が多くあり、1月から3月まで乳児を継続して養育している。次年度は、乳児を入れた7名でスタートする予定だ。0歳から18歳までの幅広い年齢層で、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにしていく。居宅介護と移動支援の利用も引き続き利用していく。職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育していく。

ベーターホーム（ファミリーホーム）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	6	6
社会的養護自立支援事業	1												0.08
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6	6
前年度	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6	6	7	6.08

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
---	----	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	---

合計	189	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2199
前年度	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	164	186	2192

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・児童自立支援計画が児童相談所より届き確認した。
- ・発達支援プランを作成した。

(2) 主な日中活動

- ・整容・朝食・出発準備・おやつ・夕食・入浴

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入学式、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	キャンプ、小学校運動会、お誕生会、避難訓練
6月	バザー、避難訓練、お誕生会
7月	FH北海道大会(ニセコ)、避難訓練
8月	キャンプ、避難訓練、お誕生会
9月	運動会、避難訓練
10月	マラソン大会、バザー、避難訓練、カーペンターズ
11月	生活発表会、避難訓練、お誕生会
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会
1月	お正月会、お誕生会、避難訓練
2月	豆まき、避難訓練、お誕生会
3月	ひなまつり、避難訓練

3. 給食提供

給食提供形態	○平日 朝・夕食 ○休日 朝・昼・夕食 食事の提供に当たっては、利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し適切な内容の食事を提供した。
給食費	0円

4. 医療体制

(1) 医療体制

- ・嘱託医 麦の子発達クリニック院長
- ・下記近隣医療機関との連携

診療科目	病院名
内科	むぎのこ発達クリニック・
精神科	むぎのこ発達クリニック、黒川クリニック
耳鼻科	くく耳鼻科・あべ耳鼻科
整形外科	奥泉整形外科病院・北海道大学病院整形外科
歯科	しろくま歯科
眼科	
皮膚科	栄町皮膚科・J R札幌病院・新道東皮膚科
緊急時	救急車対応、札幌市医師会夜間救急センター

5. 施設設備管理業務

- ・火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)
- ・室内清掃(毎日)
- ・室外清掃・草花の手入れ(都度)

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名		氏名	届出義務無し	選任届出年月日	
----	--	----	--------	---------	--

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	届出義務無し	最終変更届出年月日	
---------	--------	-----------	--

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年9月29日	2020年3月27日	2016年月日	年月日
消防署への報告	○ ・ 無		整備点検記録の有無	
			○ ・ 無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ ○
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる公園	予定地	栄小学校
施設からの距離	200m	施設からの距離	400m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	5分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
31.4.18	避難・消火・通報・救出・その他	1.10.17	避難・消火・通報・救出・その他
1.5.16	避難・消火・通報・救出・その他	1.11.21	避難・消火・通報・救出・その他
1.6.20	避難・消火・通報・救出・その他	1.12.19	避難・消火・通報・救出・その他
1.7.18	避難・消火・通報・救出・その他	2.1.16	避難・消火・通報・救出・その他
1.8.16	避難・消火・通報・救出・その他	2.2.20	避難・消火・通報・救出・その他
1.9.19	避難・消火・通報・救出・その他	2.3.20	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

・ 火災通報装置・誘導灯・防災カーテン・防災カーペット

7. 職員配置状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主養育者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	非常勤	4	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3
合計		5	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5

(人)

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
3/31~4/1	社会福祉法人妻の子会	法人研修	2名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
R1.7.13. R1.7.14	北海道FH協議会	第7回北海道FH研究大会(ニセコ)	2名
R1.10.23	札幌市児童相談所・札幌市里親会	札幌市里親促進フォーラム	2名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数	参加職種	参加	参考事項
-----	-------	------	------	----	------

		定例	臨時		人数	
ファミリーホーム会議	毎週1回(上旬・下旬)	16回		管理者・主たる養育者・補助者	4名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	無し	

12. 評価と展望

2019年度は4月に高校を卒業した子2名、9月にも18歳の子がベールホームから転居した。それに伴い、4月には2歳10ヶ月の子と16歳の男子が9月には10歳の男子が入居している。効果的に褒めていくことと秋から1日のデイリープログラムを作りました。それにスタンプを押していき、1日の終わりに良い結果としてお宝ボックスとしてお菓子を食べられることにしました。結果子どもたちも意欲的にスキル練習ができるようになりました。また暴力のある子もいるので、効果的に褒めることはもちろん放課後デイサービスの職員と連携し、徐々に暴力も減ってきている。今後思春期を迎える子ども達や発達段階も違うので児童の状況に合わせて、他事業所に助けを求めながら、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにして行く。引き続き利用して行く職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育して行く。

Ⅶ 医療・地域・相談部門

居宅介護事業所むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

居宅介護

(単位 人)

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	141	142	142	136	136	136	141	139	146	144	141	144	140.67
北区	14	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12.92
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		0.92
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	159	158	159	153	153	153	158	156	163	161	158	159	157.5
前年度	163	146	149	151	152	156	156	155	158	162	165	166	133.1

行動援護

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	37	36	36	36	36	37	38	37	38	37	37	37	36.83
北区	5	5	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6	5.75
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1				0.75
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	44	43	44	44	44	44	46	45	46	44	44	44	44.33
前年度	46	46	46	47	48	47	48	48	48	49	50	49	47.67

移動支援

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	65	65	69	65	66	67	66	66	63	62	62	63	64.92
北区	5	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4.5
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	59	56	60	56	55	56	52	54	51	48	48	46	
前年度	69	72	72	69	70	67	63	57	55	54	57	57	63.34

(2) 利用延べ人数

居宅介護

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	547	568	573	622	499	501	561	506	478	506	489	538	6388
前年度	508	570	589	549	521	477	624	599	499	509	547	597	6589

行動援護

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	44	44	47	42	32	33	34	30	35	24	22	22	409
前年度	41	49	39	51	44	50	48	39	41	43	34	45	524

移動支援

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	217	271	290	293	142	255	309	244	214	148	225	75	2683
前年度	219	317	324	238	162	215	301	260	204	132	240	211	2823

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・アセスメント
- ・アセスメントに基づきサービス等利用計画案の作成
- ・年1回作成した介護計画を保護者に説明して同意を得る。
- ・モニタリングの実施

(2) 主な日中活動

- ・該当なし

3. 医療体制

- ・むぎのご発達クリニックと連携する。
- ・職員、登録ヘルパーは健康診断を年一回、腰痛検査を年2回受ける。
- ・インフルエンザ予防接種の励行
- ・手洗いうがいの徹底

4. 施設設備管理業務

- ・消火器の点検

5. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	総合施設長	氏名	北川聡子	選任届出年月日	
----	-------	----	------	---------	--

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	平成22年7月20日	最終変更届出年月日	
---------	------------	-----------	--

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無	整備点検記録の有無		有 ・ 無

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄町小学校	予定地	日の丸公園
施設からの距離	450m	施設からの距離	400m
予定地までの所要時間	徒歩6分	予定地までの所要時間	徒歩7分

(6) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他
	避難・消火・通報・救出・その他		避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・暖房器具の点検
- ・コンセントを抜く

6. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤・兼務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス提供責任者	常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
登録ヘルパー	常勤												
登録ヘルパー	非常勤	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
合計		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

7. 実習生・介護等体験の受入

8. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
2019/4/1		法人研修①ミッション・安心な環境整備 アンガーマネジメント・虐待防止	5
2019/4/12		朝研修①「発達支援」	2
2019/4/22		片桐先生①(3歳児)	1
2019/5/22		福祉有償運送講習	1
2019/6/17		朝研修「アンガーマネジメント」(虐待防止)	1
2019/7/8		武田先生朝研修④ 「自閉症スペクトラム障害の早期発見のポイント」	1
2019/8/21		発達段階の研修	2
2019/8/26		リーダーシップ開発研修	1
2019/10/31		リーダーシップ開発研修	1
2019/11/12		リーダーシップ開発研修	1

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数

9. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜	12回		管理者・サービス提供責任者	1名	
ヘルパー会議	月1回	12回		管理者・サービス提供責任者・登録ヘルパー	4名	
リスクマネジメント会議	月1回	12回		管理者	1名	
権利擁護・虐待防止委員会	月1回	12回		管理者	1名	
感染防止委員会	隔月			サービス提供責任者	1名	
苦情処理委員会	年3回			管理者	1名	
働き方委員会	月1回	12回		サービス提供責任者	1名	
防災委員会	月1回	12回		サービス提供責任者	1名	
環境整備委員会	月1回	12回		サービス提供責任者	1名	

10. 苦情内容及び結果の公表

11. 評価と展望

【評価】

- ・毎月のCSP研修を行い、利用者さんとその家族にCSPを用いてより良い関係を築き、肯定的に支援を行った。
- ・状況に応じて各部署が集まって支援会議を行う事で、利用者さんの情報を共有でき、ヘルパーの支援内容の方向性が決まり支援することが出来た。
- ・予定の作成では、1か月の登録ヘルパーと利用者さんの予定を確認しマニュアル化できた。
家庭状況に配慮して予定の作成を行った。
- ・日中の通院介助と家事援助の需要が増えた。
- ・利用者さんの人権を守ることを第一に考えて支援を行った。

【展望】

- ・母子家庭で思春期の男の子がいる家庭の入浴介助の支援のため、男性ヘルパーの確保が必要なため引き続き募集を行う。
- ・引き続きCSPを用い、効果的な褒め方をして肯定的な関わりを行っていけるように努める。

むぎの子ども相談室

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	272	273	275	277	280	280	281	282	284	284	288	291	
北区	96	96	96	96	96	96	97	97	97	97	97	97	
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	374	375	377	379	382	382	383	384	386	386	388	391	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	19	25	29	26	31	31	29	42	30	12	14	49	337

2. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・アセスメントに基づきサービス等利用計画案の作成
- ・サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画の作成
- ・基本相談支援
- ・アセスメント
- ・サービス担当者会議の開催
- ・モニタリングの実施

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門員	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
相談員	常勤							1	1	1	1	1	1
相談員	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4

4. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月1日	むぎのこ	法人研修	2
4月12日		朝研修「発達支援」	1
4月18日		法人研修②	2
4月19日		片桐先生研修(3歳児)	1
4月22日		朝研修 武田先生	1
4月22、23日		コンサルテーション	1
5月13日		朝研修 リズム・体づくり	1
5月20日		朝研修 クッキング	1
5月27日		朝研修 武田先生	1
6月3日		朝研修 ぞうくんのさんぼ	1
6月10日		朝研修 トラウマ	1
6月12日		堀先生 コンサルテーション	1
6月17日		朝研修 アンガーマネージメント	1
6月24日		朝研修 武田先生	1
6月26日		援助計画	2
7月1日		朝研修 水運び	1
7月8日		朝研修 武田先生	1
7月22日		朝研修 アウトドア	1
7月29日		朝研修 学校教育	1
8月21日		発達段階の研修	1
8月26日		朝研修 武田先生	1
8月26日		リーダーシップ開発研修	1
8月29日		堀先生コンサルテーション	1
9月2日		朝研修 家族システム	1
9月9日		朝研修 武田先生	1
10月7日		朝研修 ソーシャルワーク	1
10月18日		わらべ歌研修	1
10月23日		黒川先生 発達障害の療育	1
10月24日		堀先生 コンサルテーション	1
10月28日		朝研修 武田先生	1
10月31日		リーダーシップ開発研修	1
11月12日		リーダーシップ開発研修	1
12月2日		朝研修 武田先生	1
12月10日		センター研修全体研修会	1
12月11日		発達段階の研修	1
12月16日		朝研修 そりすべり	1
12月23日		朝研修 武田先生	1
1月18日		虐待予防 アンガーマネージメント	1
1月20日		朝研修 ミュージックセラピー	1
1月27日		朝研修 武田先生	1
2月10日		朝研修 武田先生	1
2月17日		朝研修 食事	1
3月9日		朝研修 武田先生	1

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
8月4・5日	IBPF	CSP 大阪管理者研修	1名
9月13日	日本財団	日本財団シンポジウム	1名
9月14日～16日	日本財団・IBPF	ボーイズタウン里親研修	1名
12月7・8日	IBPF	CSP管理者SV研修	1名

5. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
子ども相談室会議	毎月1回	12回		相談支援専門員・事務員	2名	
サービス担当者会議			随時	相談支援専門員他	2名以上	

6. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	特になし	

7. 評価と展望

- ・子どもを対象とする、障害児相談支援を中心に行った。
- ・新規の受給者証申請に伴う、サービス等利用計画案の依頼のニーズが増えてきた。
- ・クリニックや保健センターからの紹介も増えてきて、その都度すぐに対応していくようにしていった。
- ・計画案の提出に追われ、本計画やモニタリングまで繋がっていないケースが多くなってしまった。次年度は計画的に予定を立てて、会議や訪問、同意を進め請求に繋げていく。
- ・出産、パニック等、家庭のニーズに合わせてショートやヘルパーの申請、変更をすぐに行うようにした。
- ・事業所の紹介の希望の相談も増えているため、地域支援マネージャーと連携し、紹介を行った。
- ・計画相談の手続きとして、①保護者が区役所に申請に行く、②申請後、計画相談の依頼という流れが保護者の方で理解していない方がいるので、まずは保護者が区役所に申請の手続きを行うことを伝えながら、難しい場合は代理申請等の支援を行なった。
- ・地域療育等支援事業と連携し、幼稚園、保育園で発達のある子が児童発達支援事業を利用するまでのサポートを行った。
- ・家族支援が必要な家庭は、通っている事業所、委託の相談室セーブネス等とも連携しサポートしている。
- ・支援が必要な家庭は関係機関で集まり家族支援会議を実施し必要な支援を行なうようにした。
- ・東区の相談支援事業所が参加する、地域のブロック会議に参加し、情報交換等行うことで連携を図っていった。
- ・今後も各機関や事業所、担当者と連携しながら、スムーズにサービスの利用に繋がったり、子どもや家族の困り感に寄り添い、支援していく。

相談室セーブネス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
東区	700	410	416	434	443	453	463	470	475	486	492	500
北区	88	56	58	58	59	59	61	61	61	62	62	62
西区	8	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
南区	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
白石区	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	18	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11
手稲区	6	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3
厚別区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清田区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	840	489	497	515	526	535	547	554	559	571	577	585
前年度	704	720	727	743	753	759	774	780	783	791	811	823

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	890	771	877	964	798	1100	1076	950	1101	875	741	934	11077
前年度	641	757	788	754	635	674	778	705	708	695	833	846	8814

2. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・アセスメントに基づきサービス等利用計画案を作成。
- ・サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画を作成。

(2) 主な日中活動

- ・基本相談支援

- ・アセスメント
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス担当者会議の開催
- ・サービス等利用計画の作成
- ・モニタリングの実施

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援 専門員	常 勤	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
相談員	常 勤	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

6. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・最低賃金改定に伴い時間給を改善
職員福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入を促進した。 ・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。

7. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	麦の子会	法人研修	6名

8. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
計画相談サービス担当者会議	更新時		12回	相談支援専門員他		
個別ケース会議（要対協含む）	随時		12回	相談支援専門員他		
ケース会議	随時		12回	相談支援専門員他		
自立支援協議会	定期開催		12回	相談支援専門員他		

9. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ・ホームページ利用による情報発信を強化した。 ・後援会と連携し、日常の様子の公開に努めた。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 ・電子データは専用サーバーに保存し、職員のみVPN接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・本部配置職員（パートを含む）を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 ・各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約は担当職員によって公正に契約した。 ・経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は実施していない。

10. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	

11. その他特記事項

- ・特になし

12. 評価と展望

- ・障がい種別に関係なく、札幌市の障がい児・者又は家族の日常生活の相談、金銭管理、福祉サービス、就労支援、精神的支援に訪問、来所、電話、メールで応じた。
- ・各種福祉サービス申請に関わる援助をし、区役所、児童相談所、教育相談、病院、学校、法律事務所などの同行支援等を行った。
- ・計画相談として、サービス等利用計画の作成をした。
- ・札幌市自立支援協議会、札幌市自立支援協議会東区部会に参加した。障がい有無に関わらず、互いに理解し、共生できる地域を目指すことを目的に研修等を行った。
- ・関係機関との連携で、要保護家庭や保護者に障がいがある家庭、子どもに障がいがある家庭への支援を行った。
- ・地域支援員の委託を受け、保育士さん等と協力し、民生児童委員、福祉協力員の方と一緒に地域に浸透するよう活動した。民生委員からの相談ケースもでてきており、連携することができた。
- ・今後も本人主体の相談を心がけ、人権を尊重した支援を行う。児童発達支援センター、児童相談所、病院、まあち、保健センター、学校等の関係機関と連携し、本人そして家族を大事にする相談室を目指したい。

むぎのこ発達クリニック

1. 施設利用状況

- ・1年間の受診者数 13,551人 1日平均51.3人
(紹介状：416通 特別児童扶養手当診断書：338通
国民年金診断書(精神障害用)：62通 福祉手当診断書：37通
自立支援意見書：55通 精神通院医療診断書：17通
デイサービス診断書：69通 発達・知能検査レポート文書：616通
保育園幼稚園加配診断書：18通 アレルギー診断書：10通)
- ・インフルエンザ予防接種 955人 その他文書：15通
- ・定期・任意の予防接種(定期接種：363人 任意接種：21人)

2. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・通常の診療体制が、その月によって生じる体制変更の内容は、むぎのこ掲示板とジャンプレッツに掲示している。その月によって掲示の遅くなる時があったので、前月の終わり頃に貼りだすようにしていく。また、クリニックだよりのお知らせ欄には、確実に記載していく。
- ・療育中のけがにおいては、診療を最優先にして即時に対応した。
- ・特定の整形外科等とは、今後も協力いただけるよう、日頃の連携を大切にしていた。

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断を、早期に済ませられるようスケジュールに沿って確実に受けられる手配を手早くした。
- ・秋には、法人全体の健康診断状況や結果をチェックして必要時個別に対応した。
- ・各事業所の感染対策、衛生管理等の意識付けをタイミングをみて行った。
- ・市内の感染症や法人内の罹患状況を把握して、できるだけ迅速に対応して蔓延防止に努めた。

3. 施設設備管理業務

- ・セコムに引き続き依頼して、防犯対策を行った。
- ・設備の点検・補修等は、辻野建設にすぐに対応していただいた。
- ・施設周囲の点検・整備はこまめに行い、近隣とのコミュニケーションの目的としても意識して行った。

4. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医師	非常勤	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
診察補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

診察補助者	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ST/OT/心理療法者	常勤	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
ST/OT/心理療法者	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5
事務員	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		17	17	17	18	17	17	17	17	17	17	17	19

5. ボランティアの受入

・特になし

6. 実習生・介護等体験の受入

むぎのこ実習生に対して、クリニックでの各種療法や親子教室の見学など、クリニックの位置づけを通して、依頼時には随時対応した。

7. 障害者自立支援法による事業の整備

むぎのこ利用児・者の他にも、福祉資源を有効に活用できるよう情報提供と、必要時診断書および意見書の作成・調整・相談を行った。

8. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 最低賃金改定に伴い時間給を改善 みなし労働制を導入
職員福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> 職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め、福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入を促進した。 全職員に対する定期健康診断を実施した。 腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	むぎのこ	法人研修	名

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
7/17～20	NPO 法人言語発達障害研究会	国リハ式(S-S 法)言語発達遅滞検査講習会	1名
9/6～8	日本作業療法士協会	第53回日本作業療法学会	1名
2/1	こころのケアとレジリエンス研究センター	TF-CBT 認知行動療法ワークショップ	3名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
全体会議	月1回	12回	0回	クリニック全職員	7～8名	

11. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ホームページを全面更新し、情報発信を強化した。 後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> 電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 電子データは専用サーバーに保存し、職員のみVPN接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> 苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 本部配置職員(パートを含む)を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約は担当職員によって公正に契約した。 経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。

事務管理の適正化	・法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	・第三者評価は実施していない。

12. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
月		

13. その他特記事項

法人内の医療事業としての意識をもって、むぎのこ年間スケジュールにより沿った連携が 取れたと思う。今後は、より具体的な内容・意識を持って連携が取れればと思う。

14. 評価と展望

(1)心理療法・査定（アセスメント）

令和元（2019）年度 心理支援業務報告 公認心理師・臨床心理士 吉村 実保

令和元(2019)年度の心理士の体制は、非常勤公認心理士：秋田有紀子・加藤香子・河内有紀・水上真理子・吉村実保の5名が勤務した。

① 個人心理療法

心理療法の方法は、各セラピストの専門性により、実際の行動の改善を目的とするアプローチ（SST、ロールプレイ、認知行動療法／秋田）、心の中の対人関係の改善を目的とするアプローチ（精神分析的心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー／吉村）、トラウマに焦点をあてた対症療法を目的としたアプローチ（水上）など様々あるが、セラピストは個々のクライアントのニーズや問題を十分考慮した上で、そのクライアントに適した支援を行った。

秋田は、5名に実施した。内容は、サポートティブな面接2名、緘黙のコミュニケーショントレーニング1名、社会的スキルトレーニング1名、引きこもり・運動支援1名だった。

水上は、5名に実施した。内容は、身体心理療法、サポートティブな面接、プレイセラピーだった。

吉村は、10名に実施した。内容は、SSTを含めた支持的遊戯療法だった。

合計 35 ケース

② 心理査定

各種（発達・知能・心理）検査は、子ども【新版K式発達検査、WISC-IV、田中ビネー知能検査、描画をはじめとした心理検査 etc】、成人【WAIS-III、田中ビネー知能検査、ロールシャッハ・テスト etc】を実施した。

a) 新版K式発達検査

秋田（56）、加藤（39）、吉村（157）、クリニック支援（93）

合計 345 ケース

b) 田中ビネー知能検査（全訂版、V）

秋田（23）、加藤（41）、河内（45）、吉村（199）、クリニック支援（7）

合計 315 ケース

c) ウェクスラー式知能検査（WISC-IV・WAIS-R・III）

秋田（11）、加藤（19）、河内（3）、水上（2）、吉村（67）、クリニック支援（9）

合計 111 ケース

d) その他発達検査（遠城寺式・乳幼児分析的発達検査など）

秋田（1）、加藤（1）、吉村（3）

合計 5 ケース

e) 質問紙法による心理検査（MMPI、YG、TEG、MAS etc）

秋田（2）、水上（1）、吉村（11）

合計 14 ケース

f) 投映法による心理検査（HTP、PF スタディ、風景構成法、バウム、ロールシャッハ etc）

秋田（2）、吉村（22）

合計 24 ケース

g) 神経心理学的検査（フロスティック視知覚発達検査、バンダーゲシュタルト検査、Rey 複雑図形検査）

秋田（1）、吉村（12）

合計 13 ケース

h) 発達心理学的検査（グッドイナフ人物画知能検査）

秋田（9）、吉村（25）

合計 34 ケース

③ 集団精神療法

a) 年長児に

方法はそれぞれの集団の特徴を考慮し、SST、ロールプレイ等の認知行動療法や集団プレイセラピーを組み合わせ実施した。

今年度実施した小集団は、合計10グループだった（隔週1回40～50分）。

センターぞう組：4グループ（4人／秋田，4人／加藤，3人／水上，8人／吉村）

事業ライラック組：2グループ（7人／水上，8人／吉村）

事業シーランチ組：2グループ（7人／秋田，7人／加藤）

事業ヨシア組：2グループ（14人／加藤）

b) 外来利用児・生徒の母を対象に

愛着パターン修正体験を目的にグループカウンセリングを水上が15名に実施した。

(2) 障害児・者リハビリテーション

1. 平成30年度言語聴覚業務報告

言語聴覚士 矢田 麻貴 結城佳生里

I. “言語聴覚士業務計画”に基づく実施報告

① 言語評価

医師の指示の下、コミュニケーションに関する客観的ならびに主観的評価を実施し、親への説明、相談を行った。評価後は必要に応じて指導へと移行した。

② 言語指導

31(2019)年度末時点での言語聴覚療法対象児の総数は191名(矢田132名 結城59名)(むぎのこ利用児・外来含む)であった。子どもの状態に応じて、40分間の個別指導を主とした言語指導、構音（発音）指導、AAC（拡大・代替コミュニケーション）指導、摂食指導を行った。定期的に、医師を交えて親への内容・経過報告、方針再検討等の機会を設けた。

※3月で終結また新規開始予定児や評価のみも含む。

④ 摂食指導

従事した対象児は0名。

2. 平成30年度作業療法士業務報告

作業療法士 大坪光保 松田京

運動機能面（粗大動作・巧緻動作・協調運動など）・行動面・情緒面・認知面等に発達上の困難さがある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1回40分～60分、週1回または2週間に1回、月1回の設定で作業療法（個別機能訓練）を実施した。また、作業療法評価のみを実施し、結果を診察時にお伝えして経過観察とする例もあった。

大坪 123例 松田 104例

(2) 親子教室

午前：週2回、午後：週2回、未就園児から市内の保育園・幼稚園に通っている未就学児までを対象とし、親子教室（クリニック母子支援事業）を、医師、心理士、作業療法士、看護師とともに実施した。

(3) むぎのこ児童発達支援センター、児童発達支援事業むぎのこの連携

・月1回、落合作業療法士の来園訓練に合わせ、パンジー組の訓練対象児への関わり方を指導いただき、都度、パンジー組通園児を中心に、センター・事業それぞれの通園児らの運動機能・生活技能・認知機能の獲得、維持、向上を図るためそれぞれ個別に関わり、直接的または間接的に発達支援を行った。

・毎週金曜日に武田先生とともにプレイセラピーの実施及び各クラスに入り、子どもへの関わりについてのご指導・ご示唆をいただいた。また、法人に所属する児・生徒・者の発達・知能検査の結果を武田先生を通じて提供した。

(4) クリニック他職種との連携

医師、心理士、言語聴覚士、作業療法士、看護師と、都度、対象者についての報告・相談を行い、毎月のクリニック全体会議の中で情報交換をし他職種とのより円滑な業務連携が図られるよう努めた。

札幌市障がい児等療育支援事業

1. 施設利用状況

・訪問療育－6件，外来療育－0件，施設支援－201件， 計 207件

2. 支援業務

実施地域：札幌市全域，

内 容：訪問療育－家庭を訪問し、生活や育児に繋がる相談や訓練

外来療育－外来の方法で、生活や育児に繋がる相談や訓練

施設支援－関係機関に対して、療育に関する専門的技術支援や情報提供

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

4. 評価と展望

- ・札幌市内全域を対象に訪問療育、施設支援を実施した。
- ・相談者、施設のニーズに合わせ、細かく専門支援を実施した。
- ・他の地域支援事業との棲み分けが必要である。
- ・支援ニーズに対し、専任職員が不足し、増員が必要である。

当別町子ども発達支援センター発達支援専門職員派遣業務

1. 利用状況

(1) 支援回数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	6
前年度	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	7

2. 支援業務

(1) 業務

- ・当別町子ども発達支援センターにおける、発達評価および専門指導
- ・当別町子ども発達支援センターの指導業務における指導及びスーパーバイズ

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1

3. 評価と展望

- ・当別町子ども発達支援センターに対し発達評価および専門指導を積極的に実施した。
- ・当別町子ども発達支援センターのニーズに合わせ、細かく、柔軟に専門支援を実施した。
- ・当別町子ども発達支援センター関係者（保護者、児童館職員）への講義を実施した。

当別町職員指導業務

2. 支援業務

(1) 業務

- ・当別町子ども発達支援センターにおける、児童発達支援管理責任者に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、相談支援専門員に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、地域の児童の発達支援に必要な業務。

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者													
児童発達支援 管理責任者	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門 員	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

4. 評価と展望

- ・利用児童についての解決すべき課題を把握し、心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、日常生活等の目標及び、当該目標を達するため具体的な支援内容等の個別支援計画の作成を行った。
- ・相談者の意志を尊重し、置かれている状況や環境に配慮の上、児童の能力や特性を踏まえて、地域において自立した生活ができるよう相談支援計画を作成し、関係機関との連携等を積極的に行った。
- ・乳幼児健診及び各関係機関でのケース会議に積極的に参加し、電話等での発達や子育てに関する相談やアドバイスをを行った。

西尾リプロセス心理臨床研究所

1. 西尾記念ホール建設用地選定

- ・札幌市東区北35条東9丁目の土地を候補地として一部取得した。

2. リプロセスカウンセラー養成講座・認定者研修・ワークショップ開催

(単位 人)

日	講座名	参加者	一般受講	スタッフ
2019. 11. 1	フォローアップ研修	9		6
2019. 11. 2	認定者研修	13	5	5
2019. 11. 3	1Day ワークショップ	6		12
2020. 2. 3-4	リプロセスカウンセラー養成講座	8		3

3. 所員のワークショップ開催補助

(単位 人)

日	開催地	参加者	スタッフ
2019. 6. 8	仙台	11	3

4. 教育 ト라우マに関する講義・講演

(単位 人)

日	学校名・学会名	講師・発表者
2019. 5. 19	名寄短期大学	2
2019. 11. 23	嗜癖行動学会 秋田大会	2

5. ホームページの運営

- ・RelativeWorks に新しいホームページの制作と運営委託した。

6. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
運営委員会	Skype にて月 1 回	12 回		所長・副所長・運営委員	6 名	11/1 は対面での開催

7. 西尾和美先生を偲ぶ会の開催

- ・2019 年 11 月 2 日に麦の子館講堂にて西尾和美先生を偲ぶ会を開催した。

8. 評価と展望

- ・西尾記念ホールの建設用地の一部を取得することができた。さらに隣接地の交渉をおこなう。
- ・西尾先生の急逝をうけ、当初 11/1～2 に予定していたリプロセスカウンセラー養成講座をフォローアップ研修に変更し、11/1 に対面での運営委員会を行い、今後の運営に関して話し合うことが出来た。
- ・認定者研修の一部をトラウマに関心のある一般受講生に公開し、養成講座への参加を促した。
- ・嗜癖行動学会でリプロセストリートの発表を行い、札幌と仙台の実践を報告した。
- ・7 月 5 日にカリフォルニアで闘病しておられた西尾和美先生が亡くなられた。札幌のみならず各地で児童虐待事件があり、社会の関心が向けられるなかで、虐待の背景にある機能不全家族でのトラウマの影響を感じたが、西尾先生を偲ぶ会でのむぎのこのお母さんたちが語ったリプロセスの経験や、嗜癖行動学会での実践報告と事例発表など、トラウマはケアすることで回復できることを感じ、研究所として西尾和美先生が生涯をかけて取り組まれたリプロセストリートの重要性を再認識した。今後もリプロセスカウンセラーの養成と実践を重ねるとともに、有効性の研究を行いたい。